

(案)

茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画の中間評価報告書

- 第3次茅ヶ崎市食育推進計画
- 第2次茅ヶ崎市健康増進計画
- 第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画

茅ヶ崎市

令和8年5月

## 目次

1.	中間評価報告書の概要.....	2
(1)	計画の基本理念と目標.....	2
(2)	中間評価報告書について.....	3
(3)	中間評価の基準.....	3
2.	茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画進捗管理表（令和3年度～7年度）.....	4
(1)	進捗管理表に見える各計画の取組の変化.....	4
(2)	進捗管理表からの5年間の取組の成果及び課題.....	5
3.	市民アンケートの回答結果.....	11
(1)	各項目の回答結果.....	12
(2)	計画策定時よりも改善した指標.....	53
(3)	計画策定時から改善が進んでいない指標.....	55
(4)	アンケート結果から見えてくる5年間の取組の評価及び課題.....	56
4.	成果目標の評価.....	57
(1)	各計画における5年間の取組評価と今後の方向性.....	57
(2)	総合評価まとめ.....	61
5.	中間評価結果を踏まえた茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画の推進.....	62
(参考資料 1)	小学生へのアンケート用紙.....	63
(参考資料 2)	中学生以上へのアンケート用紙（1枚目）.....	64
(参考資料 3)	中学生以上へのアンケート用紙（2枚目）.....	65
(参考資料 4)	茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画概要版（P5）.....	66

# 1. 中間評価報告書の概要

## (1) 計画の基本理念と目標

第3次茅ヶ崎市食育推進計画、第2次茅ヶ崎市健康増進計画、第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画の3つの計画では、子どもから高齢者まで、性別、疾病・障がいの有無に関わらず、一人ひとりがライフステージに応じて健康づくりに取り組み、人と人のつながりや信頼感、楽しみと生きがいのある自分らしい生活を送ることができる社会の実現を目指し、基本理念を設定しています。

また、基本理念に基づき、3つの計画を一体的に推進するにあたり、3つの計画に共通する基本目標を定めました。健康寿命を延伸することは、高齢社会において重要であり、3つの計画すべてに関わる指標となるため、基本目標を設定しています。



(2) 中間評価報告書について

茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画は令和3年に策定され、令和12年度までの10か年計画となっています。

令和3年度と令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響受けましたが、その中でICT技術の進展や新たなサービスが登場し、社会環境は大きく変化しました。

<主な社会環境の変化>

- ・感染拡大防止対策に伴う外出機会の減少
- ・学校給食や行事等の実施方法の変更
- ・在宅時間の増加、テレワーク等の働き方の変化
- ・対面による交流や相談機会の減少
- ・ICTを活用した情報発信や事業実施の増加

さらに、令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが2類相当から5類感染症へ変更され、新たに定着した取組がある一方で、従来の対面教室やイベントの開催等に戻った取組もあり、全体として変化が大きい5年間となりました。

本書では、計画の中間地点である令和7年度時点での成果と課題を整理し、今後の取組みの方向性の検討を行っています。



(3) 中間評価の基準

茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画の中間評価は、前期5年間の計画進捗状況管理表から取り組みの進捗状況、また、市民アンケートによる回答を踏まえて評価を行いました。

① 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画進捗管理表（令和3年度～7年度）

各施策の進捗状況については、「茅ヶ崎市食育健康づくり推進委員会」からの答申に基づき、毎年度評価及び検討した各取組について、計画進捗管理表における事業実施数や取組評価点を基に評価を行いました。[2章]

② 市民アンケートの回答結果

市民アンケートの回答結果を基に、市民の生活習慣の傾向を把握するとともに、計画の進捗状況を確認しました。[3章]

## 2. 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画進捗管理表（令和3年度～7年度）

### (1) 進捗管理表に見える各計画の取組の変化

各計画の各施策の評価点と事業数をまとめました。

事業数の増減はありますが、各事業の評価点はいずれも高く実施ができています。

計画名	施策	事業数と評価点	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
第3次茅ヶ崎市食育推進計画	食の生産、流通、安全への理解	実施事業数	9	16	14	13	13
		取組評価点			7.6	7.3	7.5
	食文化の体験と継承、共食の推進	実施事業数	15	20	21	18	15
		取組評価点			7.4	7.3	7.9
	生きる力としての食生活の基礎づくり	実施事業数	12	17	18	18	17
		取組評価点			7.8	7.5	7.8
第2次茅ヶ崎市健康増進計画	【一次予防】生活習慣の改善、心身機能の維持・向上	実施事業数	45	52	57	53	45
		取組評価点			7.3	7.3	7.7
	【二次予防】生活習慣病の早期発見・早期治療と重症化予防対策の推進	実施事業数	7	9	10	12	11
		取組評価点			7.4	7.2	7.5
第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画	【一次予防】生涯を通じた歯と口の健康づくりの推進	実施事業数	9	12	14	11	12
		取組評価点			7.6	7.4	7.8
	【二次予防】歯科口腔保健対策の推進	実施事業数	6	7	8	8	8
		取組評価点			7.3	7.6	7.8

### 指標の達成状況に対する評価

指標の達成状況	評価点
各事業の目標値を90%以上の達成	4
各事業の目標値を70%以上90%未満の達成	3
各事業の目標値を50%以上70%未満の達成	2
各事業の目標値の50%未満の達成	1

### 実施内容に対する評価

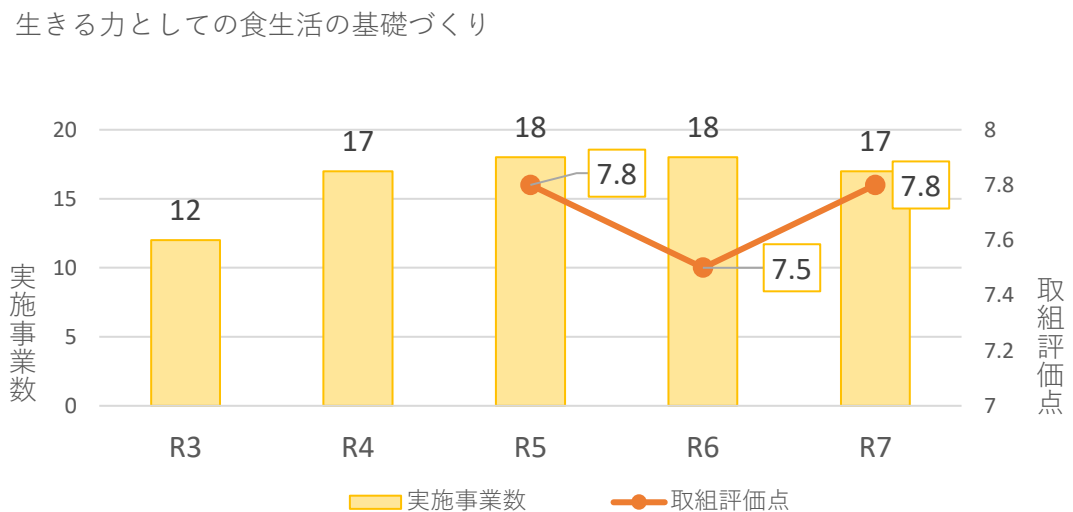
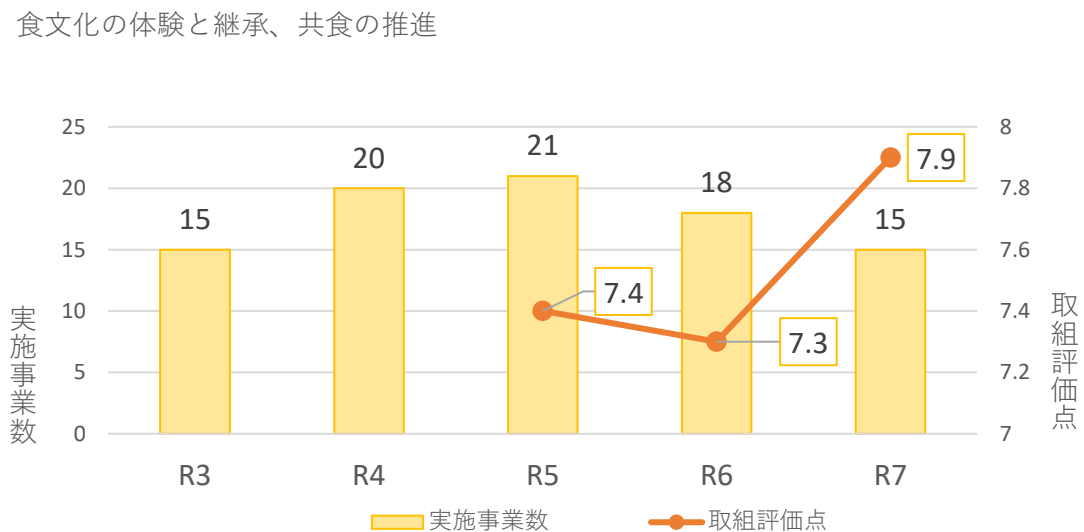
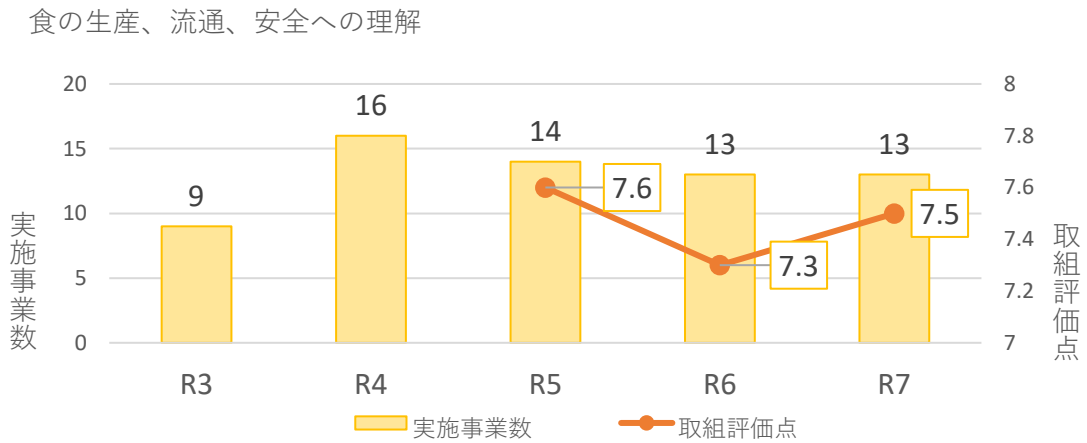
達成度	評価点
各計画の施策を進める取組として成果があった	4
各計画の施策を進める取組としておおむね成果があった	3
各計画の施策を進める取組としての成果があがらなかったが、今後調整することで成果が見込める	2
各計画の施策を進める取組としての成果があがらなかったため、今後取り組みの見直し・大幅変更が必要である	1

※取組評価点は「指標の達成状況に対する評価」と「実施内容に対する評価」を合算した8点満点で算出。

※取組評価点の令和3年度、4年度については新型コロナウイルス感染症の影響で、事業計画を作成し、実施後の評価を行うことができず、取組状況調査となったため評価点の記載はありません。

(2) 進捗管理表からの5年間の取組の成果及び課題  
各計画の各施策の成果及び課題をまとめました。

【第3次茅ヶ崎市食育推進計画】



### ① 食の生産、流通、安全への理解

食の生産、流通、安全への理解を促す施策については、食品ロスや茅産茅消の普及啓発から、収穫体験、給食での茅ヶ崎産の食品の提供など、知識と実践の両面からの取組が進められています。

事業実施数は令和 5 年度以降ほぼ横ばいですが、一定規模の取組が継続して実施されています。

取組評価点数は、高い水準を維持しており、体験事業等を通じ市民の理解促進に一定の成果が見られます。一方で、事業規模や参加者数には変動もあるため、対象者が参加しやすく、学んだ内容を実践につなげられる取組の充実が課題です。

### ② 食文化の体験と継承、共食の推進

食文化の体験と継承、共食の推進に関する施策では、日本の食文化はもちろん海外の食文化についても学ぶ講座や、学んだ内容を料理を通じて体験したり、子供と保護者を含めた取組も多く展開されています。

実施事業数は減少傾向がみられますが、食文化の体験の取組が継続して実施されており、SNSを活用した情報発信も積極的に行われています。

取組評価点数は、高い水準を維持しており、体験事業を通じた食文化への理解を深めるとともに共食の機会を創出するなど一定の成果がみられます。実施事業の内容が充実し、参加者からの評価も高くなっています。

今後は、参加者層のさらなる拡大を図るとともに、食文化を地域で継承していく基盤強化に向けた取組の充実が課題です。

### ③ 生きる力としての生活の基礎作り

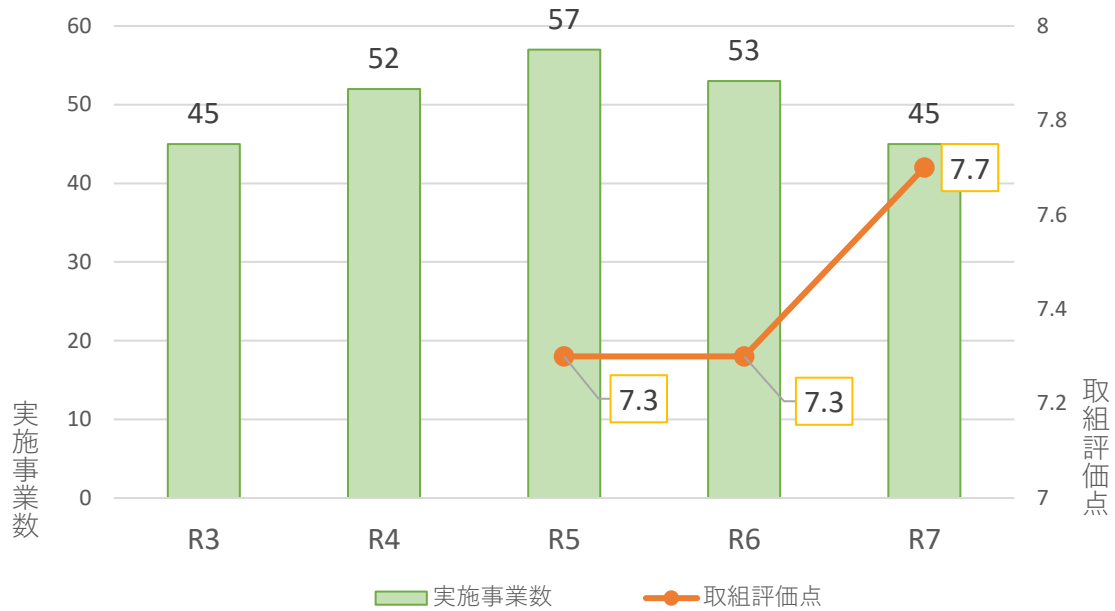
生きる力としての食生活の基礎づくりに関する施策では、食に関する知識を誰でも得ることができるように、子供から高齢者までの幅広い年代に向けた知識の普及啓発のほか、相談事業や教室などの取組が行われています。

実施事業数は令和 4 年度からほぼ横ばいです。令和 6 年 10 月に開始された中学校給食は令和 7 年度には全ての中学校で開始され、給食だより等を通じて食生活の基本を啓発するなど、学校や保育所等を中心に継続的な取組が進められています。

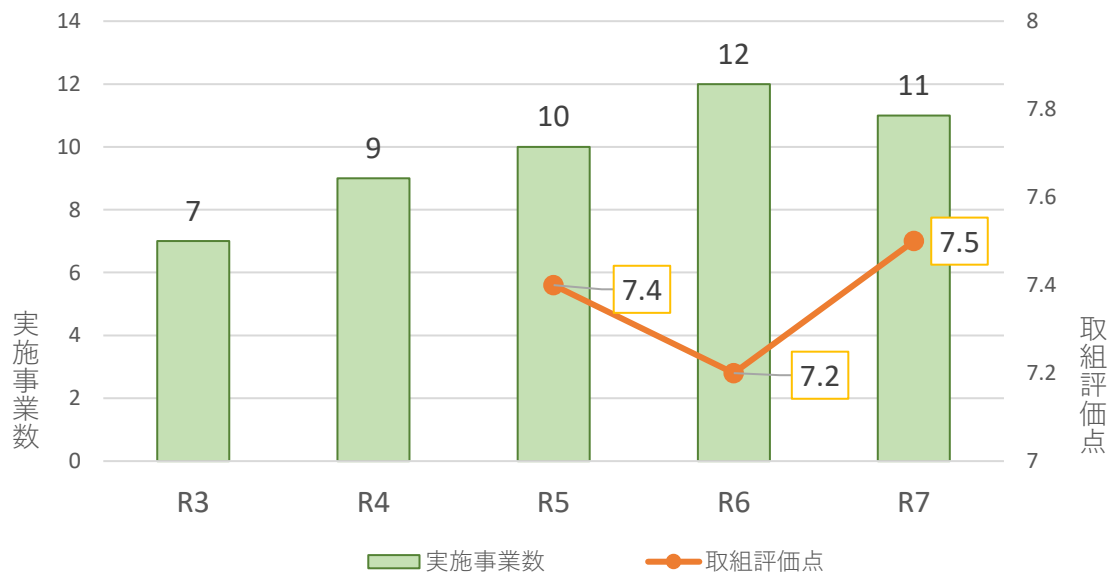
取組評価点数は、高い水準にあり、発達段階に応じた食育の取組が着実に進められています。一方、学習した内容を家庭や地域での実践につなげていくため、関係機関との連携をさらに強化していくことが今後の課題です。

【第2次茅ヶ崎市健康増進計画】

【一次予防】生活習慣の改善、心身機能の維持・向上



【二次予防】生活習慣病の早期発見・早期治療と重症化予防対策の推進



① 【一次予防】生活習慣の改善、心身機能の維持・向上

一次予防に関する施策では、子供から高齢者までの幅広い年代に向けて健康相談体制を整備し、悩みごとや困りごとに対して適切な支援につなげるなど、市民の方の不安の軽減ができる取組をすすめています。

実施事業数は令和 5 年度以降減少傾向がみられますが、他の計画と比較して多くの取組が継続して実施されています。

取組評価点数は、高い水準となっています。ライフステージに応じた健康づくりの取組が一定水準で推進されています。

今後は、新規の参加者を増やすために、講演会等のテーマに新規性を持たせる等、より効果的な事業展開に向けた工夫が求められます。

② 【二次予防】生活習慣病の早期発見・早期治療と重症化予防対策の推進

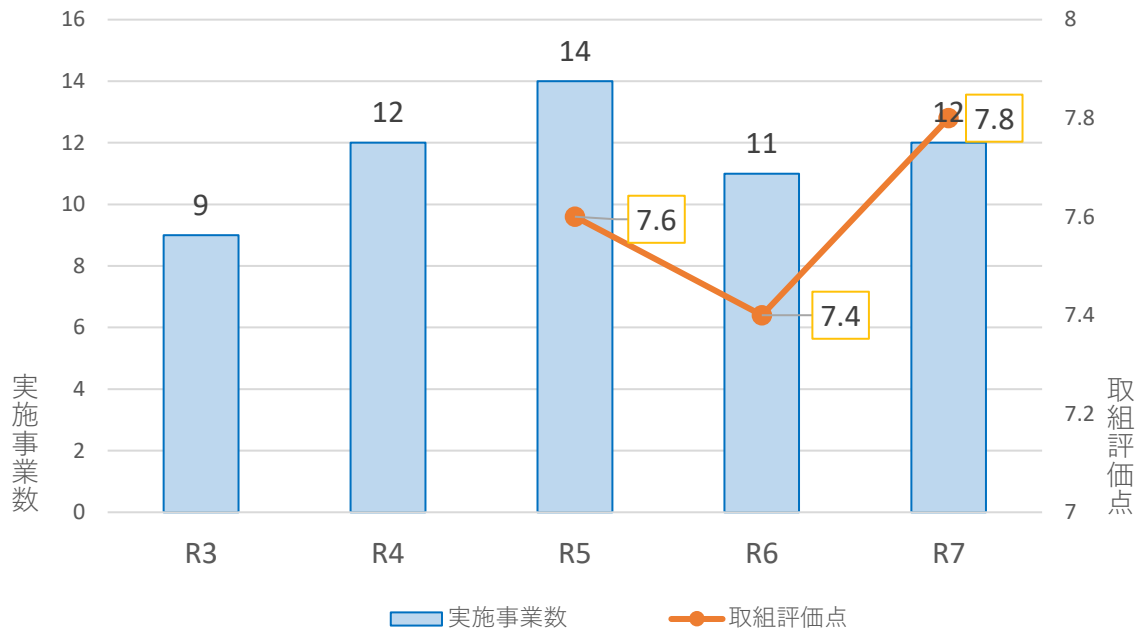
二次予防に関する施策では、健康診断等の受診勧奨やかかりつけ医の普及を図っています。SNSのほか、さまざまな広報媒体を用いて普及啓発に取り組んでいます。

実施事業数は、横ばいで推移しています。健康診断等は継続して実施されており、講演会等も定期的に行われています。

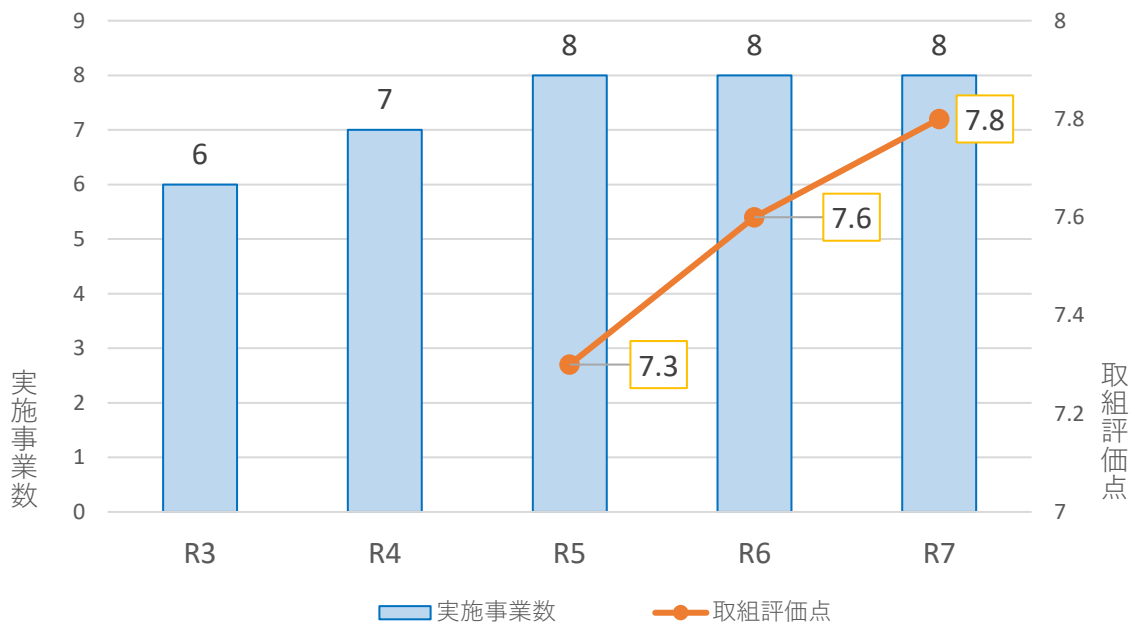
取組評価点数は、高い水準を維持しています。今後は、検診事業の受診率向上に向けて計画的な受診を促すメッセージを強調した周知啓発等の効果的な取組を実施していくことが課題です。

【第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画】

【一次予防】生涯を通じた歯と口の健康づくりの推進



【二次予防】歯科口腔保健対策の推進



① 【一次予防】生涯を通じた歯と口の健康づくりの推進

一次予防に関する施策では、お口の健康に関連する教室やイベントで、歯みがきの習慣、歯周病と生活習慣病の関係、飲み込む力・噛む力の大切さについて普及啓発を行っています。

実施事業数はほぼ横ばいですが、歯と口の健康づくりに関する取組が一定規模で継続して実施されています。

取組評価点数は、高い水準を維持しており、歯周病予防や口腔機能に関する普及啓発が計画に沿って進められています。

今後も事業を継続していくこと、参加者が固定化しないように、新規参加者を取り込むため、周知方法を工夫しより幅広い世代への展開が求められます。

② 【二次予防】歯科口腔保健対策の推進

二次予防に関する施策では、歯科健診の実施のほか、子供から高齢者までの関係する部署と歯科保健担当部署での連携を強化し、情報共有や意見交換を行い、地域全体での歯科保健の向上に努めています。

実施事業数は安定しており、歯科検診等の取組が着実に実施されています。

取組評価点数は、高い水準が維持されており、取組内容の充実や実施体制の安定化が進んでいます。

今後は、引き続き市民への周知を行い、特に成人を対象とした受診率の低い取組においては、SNS等を活用し、計画的に受診できるように促すための周知の充実が求められます。

### 3. 市民アンケートの回答結果

#### 【概要】

進捗管理表からは見えてこない市民の生活習慣や意識についてアンケートを実施しました。

調査期間：2025年11月10日～12月7日

対象者：満15歳以上の市民、市内の小中学生

総回答数：1,552件

有効回答数（率）：1,468件（94.6%）

回答形式内訳：オンライン回答：994件（67.7%）、紙回答：474件（32.3%）

本アンケートでは、計画の策定にあたり実施した「茅ヶ崎市『食育・健康づくり』に関するアンケート調査」（令和元年度）との比較を可能にするため、成果目標に係る主要な設問を継承しつつ、市民の皆様が回答しやすいよう簡略化を図っています。

年齢を絞っていない成果目標の対象年齢は、15歳以上です。計画の指標ごとに成果目標の対象年齢が異なるため、回答者全体の結果の他、対象となる年齢の結果を分けて記載しています。

回答者の年代により、設問及び回答数が下記のとおり異なります。

小学生、中学生：9問/188件
15～19歳 <sup>※1</sup> ：15問/13件
20歳代～70歳代：19問/1,177件
80歳代以上：20問/90件
※1 中学生を除く

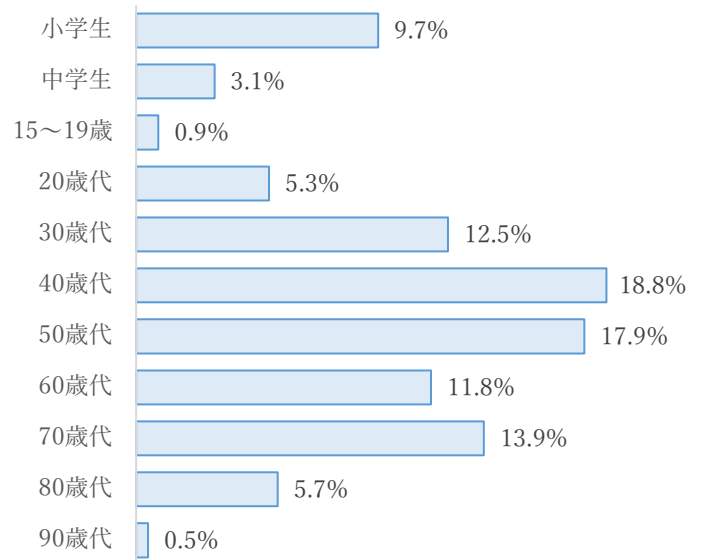
回答の構成比は百分率で表示し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、回答比率を合計しても100.0%にならないことがあります。

(1) 各項目の回答結果

① 年代

設問 1 年代

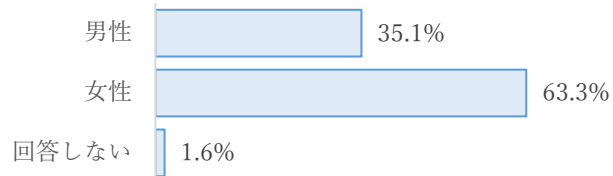
	回答数	構成比
小学生	142	9.7%
中学生	46	3.1%
15～19歳	13	0.9%
20歳代	78	5.3%
30歳代	183	12.5%
40歳代	276	18.8%
50歳代	263	17.9%
60歳代	173	11.8%
70歳代	204	13.9%
80歳代	83	5.7%
90歳代	7	0.5%
合計	1,468	100.0%



② 性別

設問 2 性別

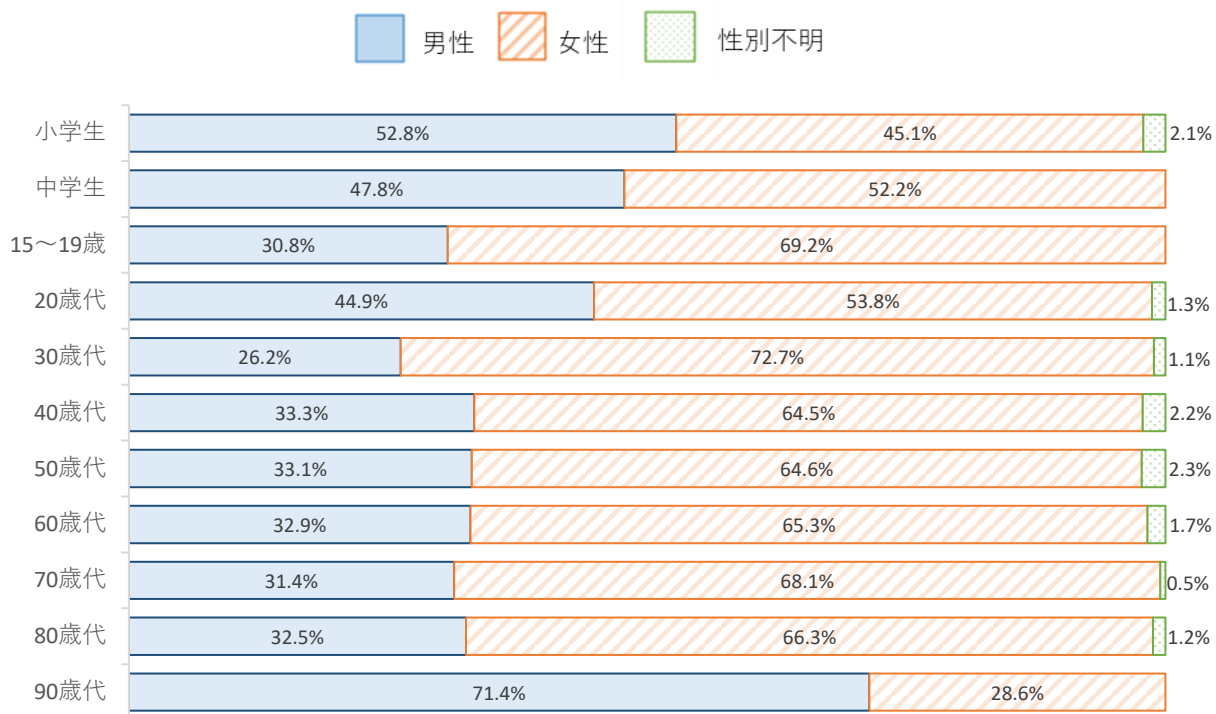
	回答数	構成比
男性	516	35.1%
女性	929	63.3%
回答しない	23	1.6%
回答数	1,468	100.0%



(回答者の年代別・男女別内訳)

	小学生	中学生	15～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
男性	75	22	4	35	48	92	87	57	64	27	5	516
女性	64	24	9	42	133	178	170	113	139	55	2	929
回答しない	3	0	0	1	2	6	6	3	1	1	0	23
合計	142	46	13	78	183	276	263	173	204	83	7	1,468

※以下、回答しないを選択された方に関しては、「性別不明」の表記とします。また、男女別内訳に含みません。

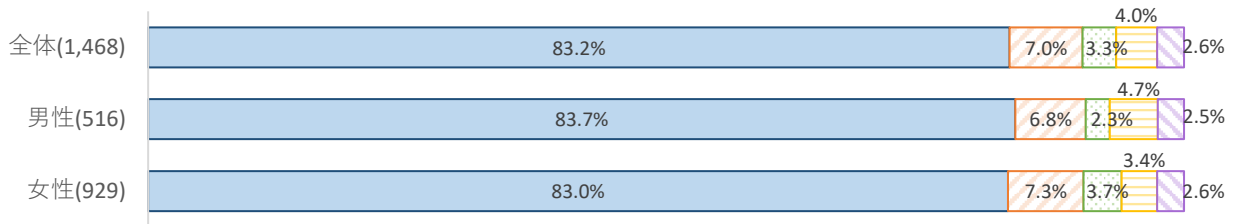


### ③ 朝食を食べる頻度

#### 設問 3 朝ごはんを食べていますか

全体 (n=1,468)

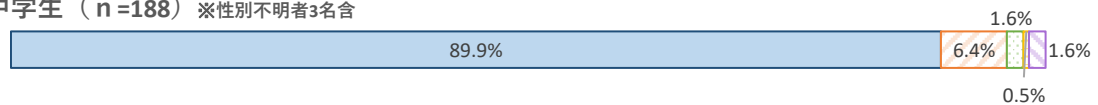
※性別不明者23名含む



15歳以上 (n=1,280) ※性別不明者20名含



小・中学生 (n=188) ※性別不明者3名含

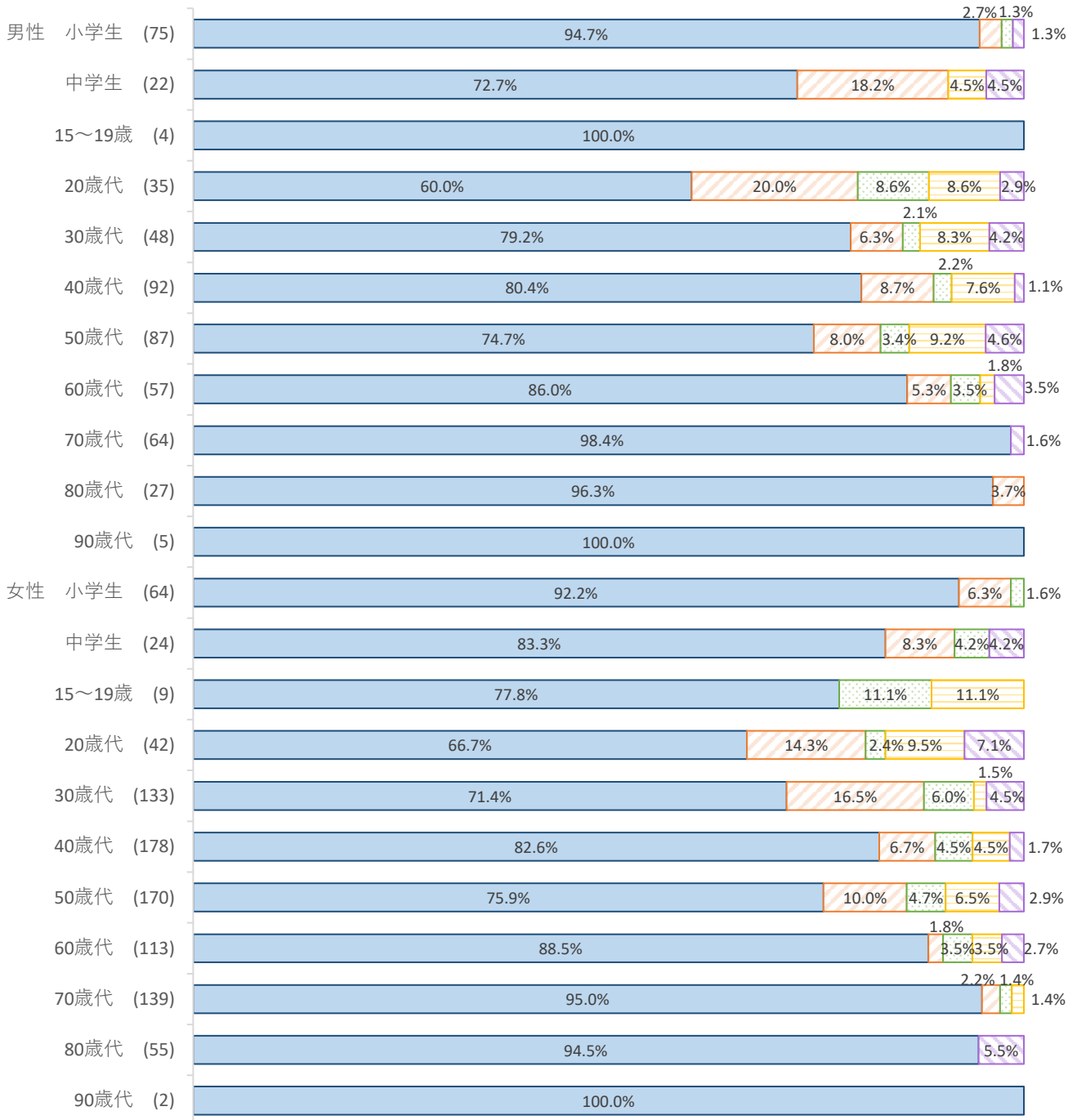
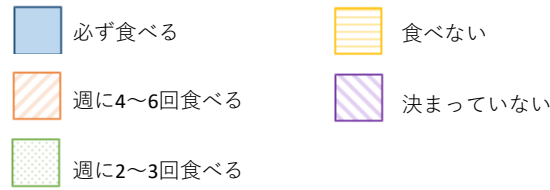


朝食を食べる頻度は「必ず食べる」が 83.2%で最も多く、それ以外は 10%未満になっている。

男女の差はほぼないが、15歳以上は、小・中学生に比べ必ず食べる割合が低下している。

	必ず食べる			週に4~6回食べる			週に2~3回食べる			食べない			決まっていない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	71	59	3	2	4	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	142
中学生	16	20	0	4	2	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	46
15~19歳	4	7	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	13
20歳代	21	28	0	7	6	0	3	1	0	3	4	1	1	3	0	78
30歳代	38	95	2	3	22	0	1	8	0	4	2	0	2	6	0	183
40歳代	74	147	3	8	12	0	2	8	1	7	8	1	1	3	1	276
50歳代	65	129	5	7	17	0	3	8	1	8	11	0	4	5	0	263
60歳代	49	100	3	3	2	0	2	4	0	1	4	0	2	3	0	173
70歳代	63	132	1	0	3	0	0	2	0	0	2	0	1	0	0	204
80歳代	26	52	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	83
90歳代	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
全体	1,221			103			48			58			38			1,468
男性	432			35			12			24			13			516
女性	771			68			34			32			24			929
性別不明	18			0			2			2			1			23

### 性別・年代別

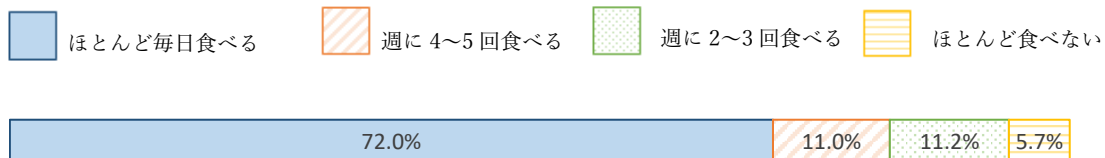


男女ともに、20歳代における「必ず食べる」と回答した割合は60%台で、他の年代と比べて低い値となっている。

④ 1日2回以上主食主菜副菜を組み合わせた食事

設問4 1日2回以上、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べていますか

全体 (n=1,468) ※性別不明者23名含む



15歳以上 (n=1,280) ※性別不明者20名含む



20歳代・30歳代 (n=261) ※性別不明者3名含む

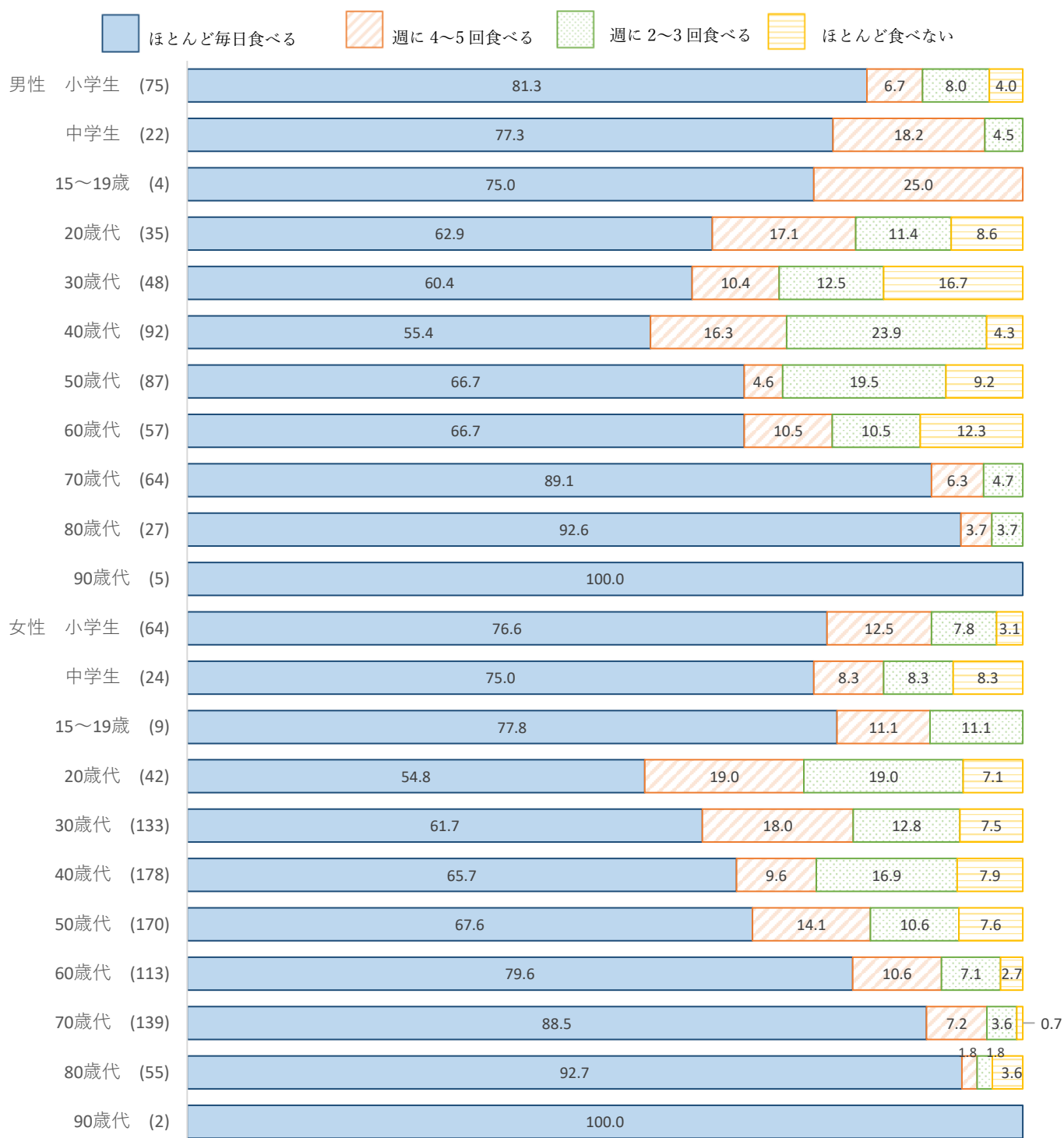


1日2回以上、主食・主菜・副菜をみ合わせた食事は、「ほとんど毎日食べる」が72.0%で最も高く、次いで「週2~3回食べる」、「週4~5回食べる」が11%台となっている。

20歳代~30歳代は、他の年代に比べ「ほとんど毎日食べる」割合が低く、ほとんど食べない割合が高くなっている。

	ほとんど毎日食べる			週に4~5回食べる			週に2~3回食べる			ほとんど食べない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	61	49	1	5	8	2	6	5	0	3	2	0	142
中学生	17	18	0	4	2	0	1	2	0	0	2	0	46
15~19歳	3	7	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	13
20歳代	22	23	0	6	8	0	4	8	1	3	3	0	78
30歳代	29	82	1	5	24	0	6	17	1	8	10	0	183
40歳代	51	117	2	15	17	2	22	30	1	4	14	1	276
50歳代	58	115	6	4	24	0	17	18	0	8	13	0	263
60歳代	38	90	3	6	12	0	6	8	0	7	3	0	173
70歳代	57	123	0	4	10	0	3	5	1	0	1	0	204
80歳代	25	51	1	1	1	0	1	1	0	0	2	0	83
90歳代	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
全体	1,057			162			165			84			1,468
男性	366			51			66			33			516
女性	677			107			95			50			929
性別不明	14			4			4			1			23

## 性別・年代別

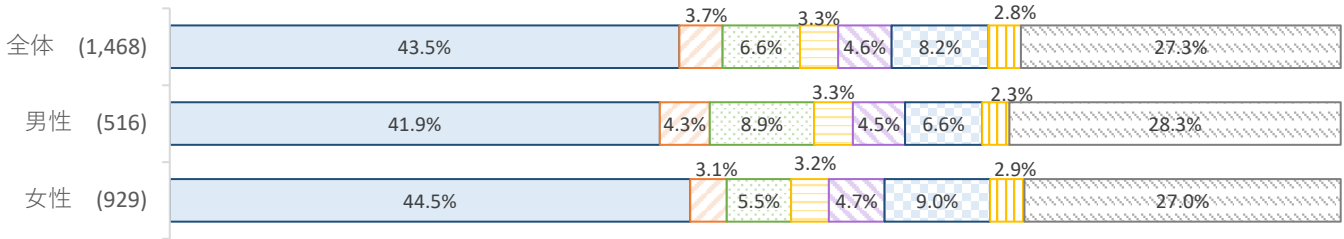


男性の20歳代~40歳代、女性の20歳代~30歳代は他の年代に比べ、ほとんど毎日食べる割合が低くなっている。特に男性の40歳代、女性の20歳代は顕著で、ほとんど毎日食べる割合が低く、週に2~3回食べる割合が高くなっている。

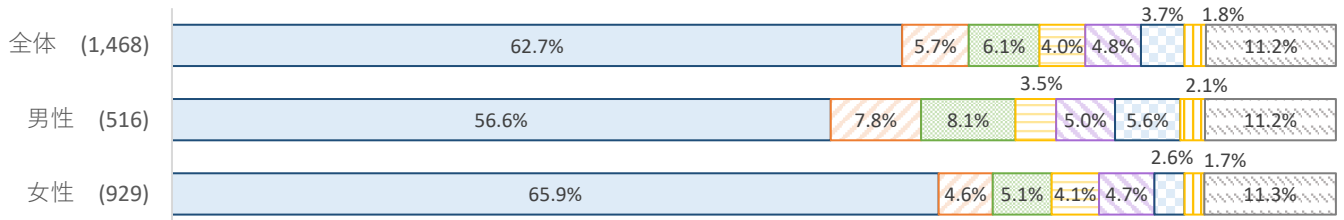
⑤ 誰かと一緒に食事をする頻度

設問 5-1 「朝ごはん」を誰かと一緒に食べることが、週に何回ありますか  
 設問 5-2 「夕ごはん」を誰かと一緒に食べることが、週に何回ありますか

○ 「朝ごはん」全体 (n=1,468) ※全体には性別不明者23名含む

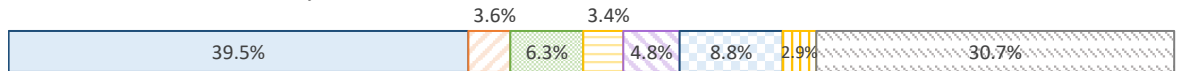


● 「夕ごはん」全体 (n=1,468) ※全体には性別不明者23名含む



誰かと一緒に食事をする頻度は、朝食、夕食ともに「7回」が最も多く、朝食で43.5%、夕食で62.7%となっている。朝食、夕食ともに「7回」と回答した割合は、男性が女性より低くなっている。

○ 「朝ごはん」15歳以上 (n=1,280) ※性別不明者20名含む

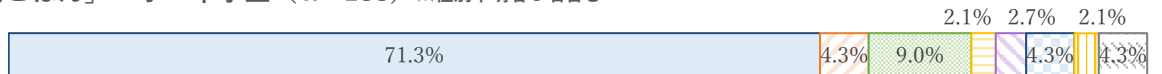


● 「夕ごはん」15歳以上 (n=1,280) ※性別不明者20名含む



15歳以上で誰かと一緒に食事をする頻度は、朝食、夕食ともに「7回」が最も多く、朝食で39.5%、夕食で59.5%となっている。

○ 「朝ごはん」小・中学生 (n=188) ※性別不明者3名含む



● 「夕ごはん」小・中学生 (n=188) ※性別不明者3名含む



小・中学生で誰かと一緒に食事をする頻度は、朝食、夕食ともに「7回」が最も多く、朝食で71.3%、夕食で84.6%となっている。

朝ごはん及び夕ご飯を誰かと一緒に食べる平均回数を「誰かと一緒に食べる回数×人数」の平均回数で算出しました。

○「朝ごはん」を誰かと一緒に食べる平均回数

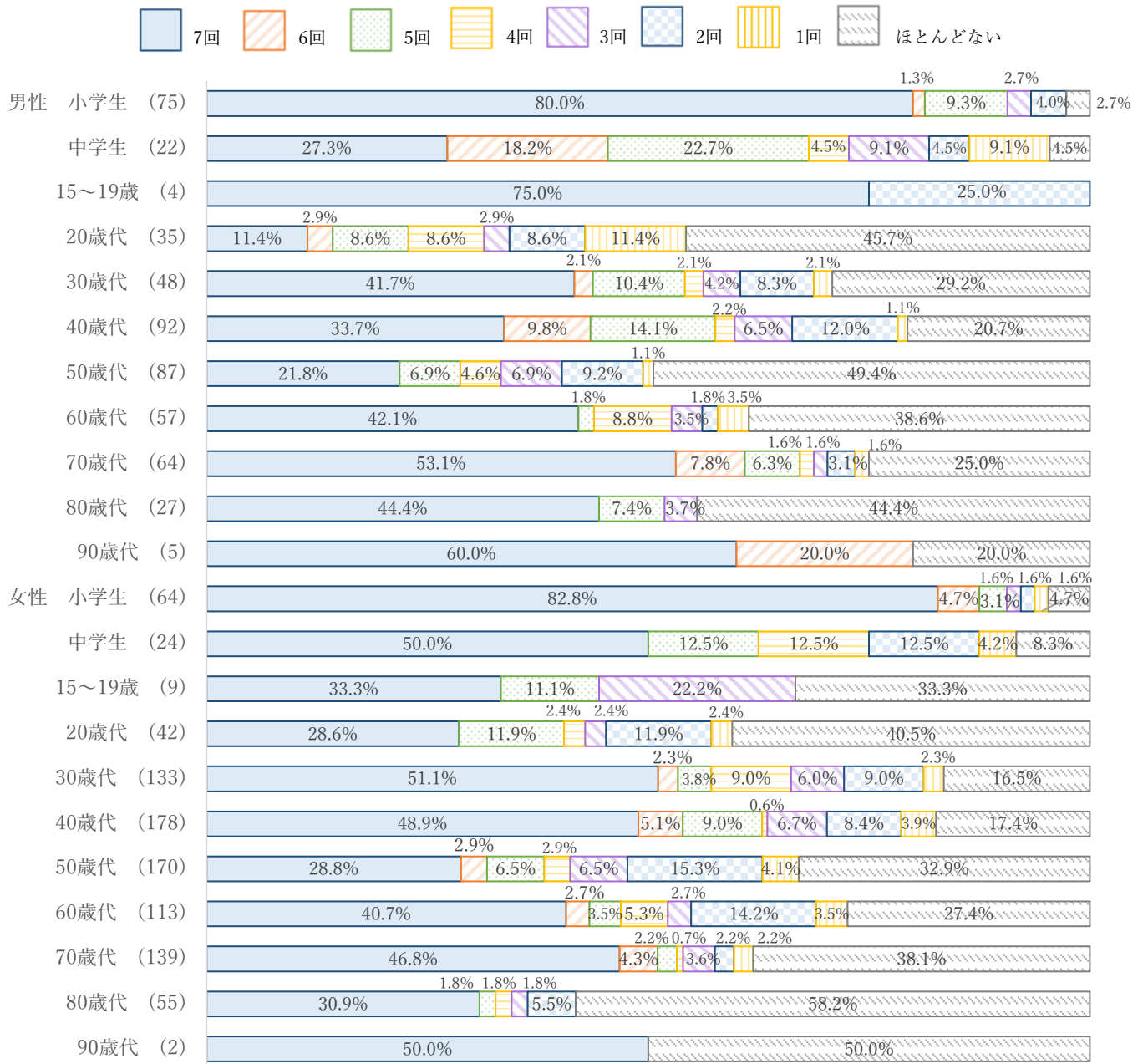
小・中学生	週 6 回
15 歳以上	週 4 回

●「夕ごはん」を誰かと一緒に食べる平均回数

小・中学生	週 7 回
15 歳以上	週 5 回

小・中学生と 15 歳以上で比較すると、朝ごはん、夕ごはんともに小・中学生の平均回数が高くなっている。

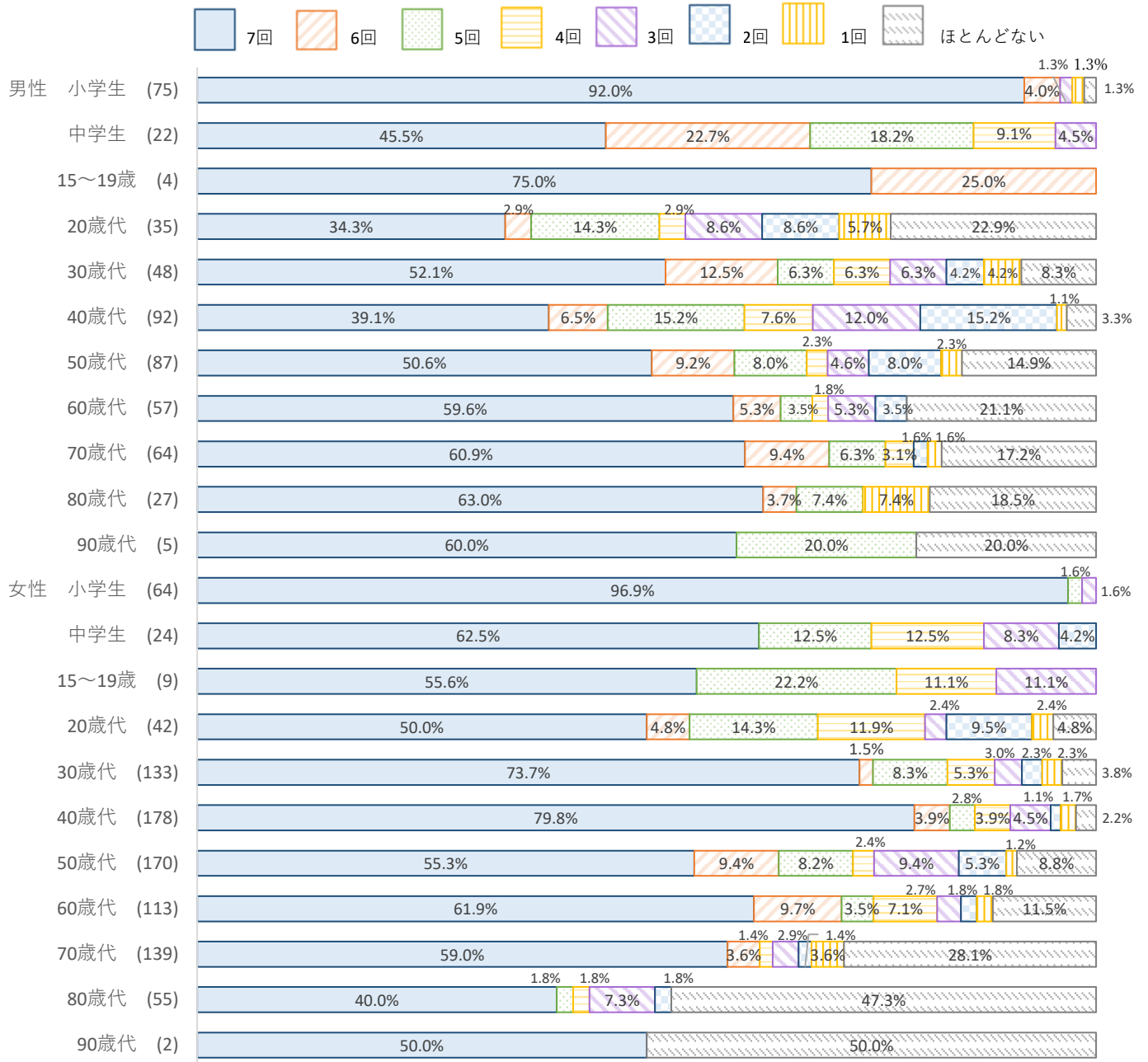
○「朝ごはん」性別・年代別



誰かと一緒に食事をする頻度が「7回」と回答した割合は、男女ともに小学生で高い。

年代によって、誰かと一緒に食事をする頻度が「7回」の回答はばらつきが大きいことが分かる。特に男性の中学生、20歳代、50歳代では「7回」の割合が低くなっており、女性でも20歳代、50歳代で低くなっている。

● 「夕ごはん」性別・年代別



誰かと一緒に夕食をとる頻度が「7回」と回答した割合は、男女ともに小学生で高い。年代別にみると、20歳代男性が他年代より低い。また、40歳代で男女で大きな差がみられ、男性39.1%、女性79.8%となっている。

朝ごはんを食べる頻度の性別及び年代別の集計表

性別	7回			6回			5回			4回			3回			2回			1回			ほとんどない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	60	53	3	1	3	0	7	2	0	0	0	0	2	1	0	3	1	0	0	1	0	2	3	0	142
中学生	6	12	0	4	0	0	5	3	0	1	3	0	2	0	0	1	3	0	2	1	0	1	2	0	46
15～19歳	3	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0	13
20歳代	4	12	0	1	0	0	3	5	0	3	1	0	1	1	0	3	5	0	4	1	0	16	17	1	78
30歳代	20	68	0	1	3	0	5	5	0	1	12	0	2	8	0	4	12	0	1	3	1	14	22	1	183
40歳代	31	87	1	9	9	0	13	16	0	2	1	0	6	12	0	11	15	3	1	7	1	19	31	1	276
50歳代	19	49	2	0	5	3	6	11	0	4	5	0	6	11	0	8	26	0	1	7	0	43	56	1	263
60歳代	24	46	3	0	3	0	1	4	0	5	6	0	2	3	0	1	16	0	2	4	0	22	31	0	173
70歳代	34	65	0	5	6	0	4	3	0	1	1	1	1	5	0	2	3	0	1	3	0	16	53	0	204
80歳代	12	17	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	1	1	0	0	3	0	0	0	0	12	32	0	83
90歳代	3	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7
全体	639			54			97			48			67			121			41			401			1,468
男性	216			22			46			17			23			34			12			146			516
女性	413			29			51			30			44			84			27			251			929
性別不明	10			3			0			1			0			3			2			4			23

夕ごはんを食べる頻度の性別及び年代別の集計表

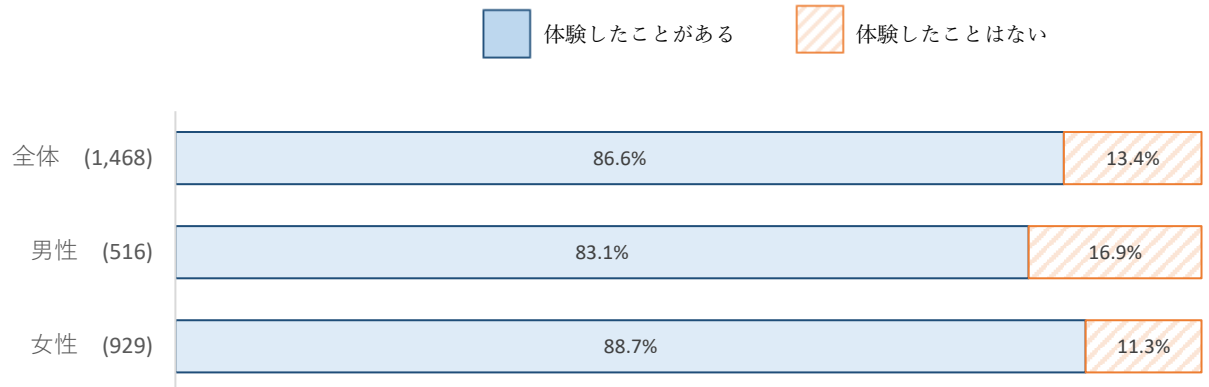
性別	7回			6回			5回			4回			3回			2回			1回			ほとんどない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	69	62	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	142
中学生	10	15	0	5	0	0	4	3	0	2	3	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	46
15～19歳	3	5	0	1	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
20歳代	12	21	0	1	2	0	5	6	0	1	5	0	3	1	0	3	4	0	2	1	0	8	2	1	78
30歳代	25	98	0	6	2	0	3	11	0	3	7	1	3	4	0	2	3	1	2	3	0	4	5	0	183
40歳代	36	142	5	6	7	0	14	5	0	7	7	0	11	8	0	14	2	1	1	3	0	3	4	0	276
50歳代	44	94	5	8	16	1	7	14	0	2	4	0	4	16	0	7	9	0	2	2	0	13	15	0	263
60歳代	34	70	3	3	11	0	2	4	0	1	8	0	3	3	0	2	2	0	0	2	0	12	13	0	173
70歳代	39	82	0	6	5	0	4	0	0	2	2	1	0	4	0	1	2	0	1	5	0	11	39	0	204
80歳代	17	22	1	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	4	0	0	1	0	2	0	0	5	26	0	83
90歳代	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	7
全体	921			84			89			58			70			55			27			164			1,468
男性	292			40			42			18			26			29			11			58			516
女性	612			43			47			38			44			24			16			105			929
性別不明	17			1			0			2			0			2			0			1			23

⑥ 農業や漁業体験の有無

設問 6 農業・漁業を体験したことがありますか（複数選択可）

全体（n=1468）※全体には性別不明者23名含む

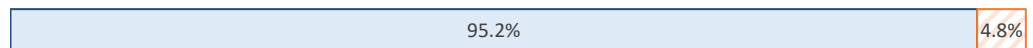
（「体験したことがある」は、回答者から「体験したことがない」を差し引いた数値として算出。）



15歳以上（n=1,280）※性別不明者20名含む



小中学生（n=188）※性別不明者3名含む



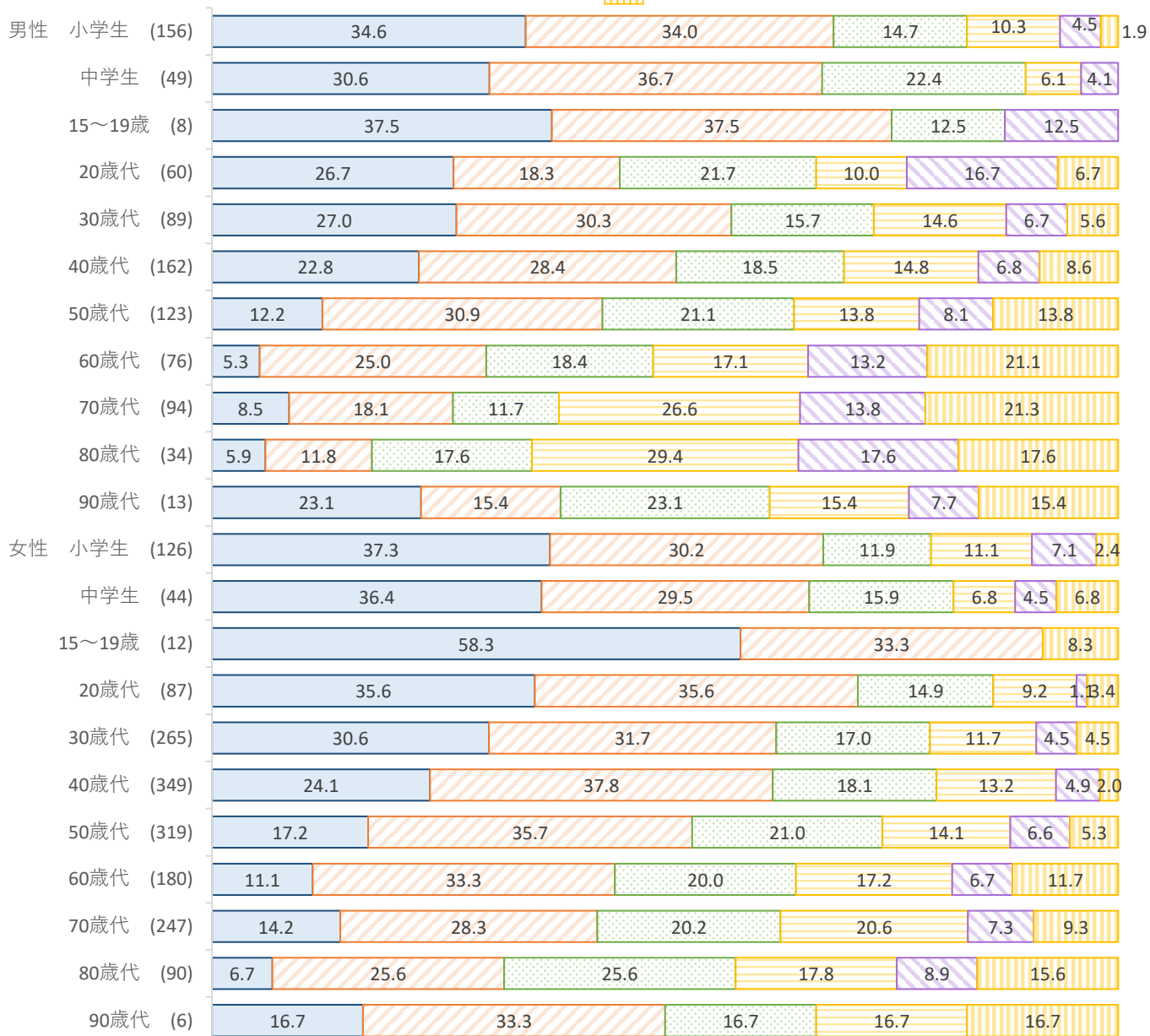
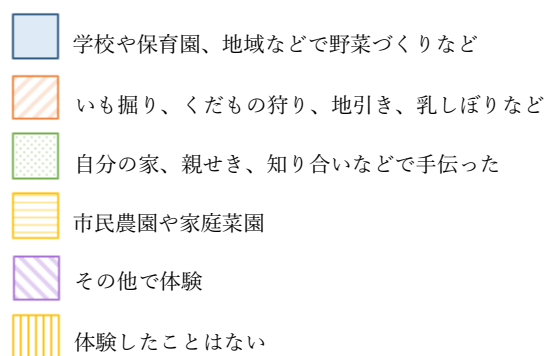
農業や漁業体験の有無は、「体験したことがある」が86.6%と高くなっており、小中学生が95.2%と高くなっている。

性別・年代別（複数選択可）

（n=2,589 回答数）

※回答者の人数は1,271名（男性429、女性824、性別不明18）

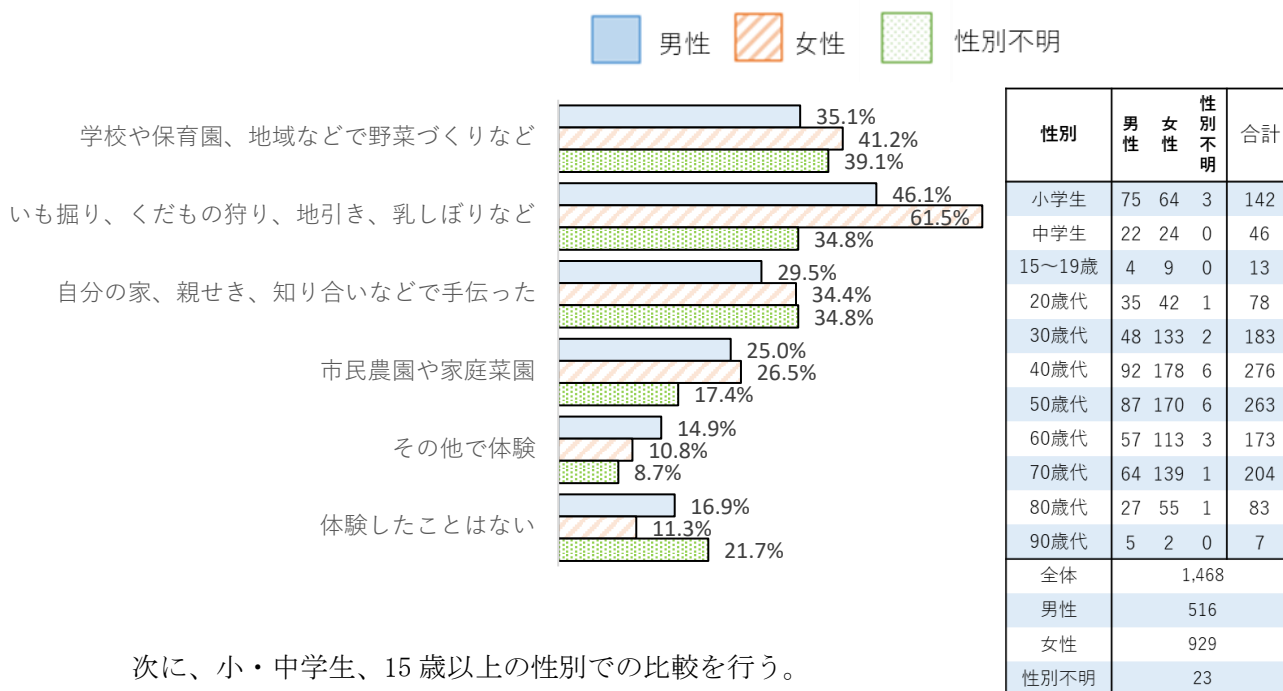
※下記のグラフには性別不明者18名分の回答36件は含まない



「体験したことがない」と回答した割合は、男性は50歳代以上で高くなり、女性は60歳代以上で高くなっている。

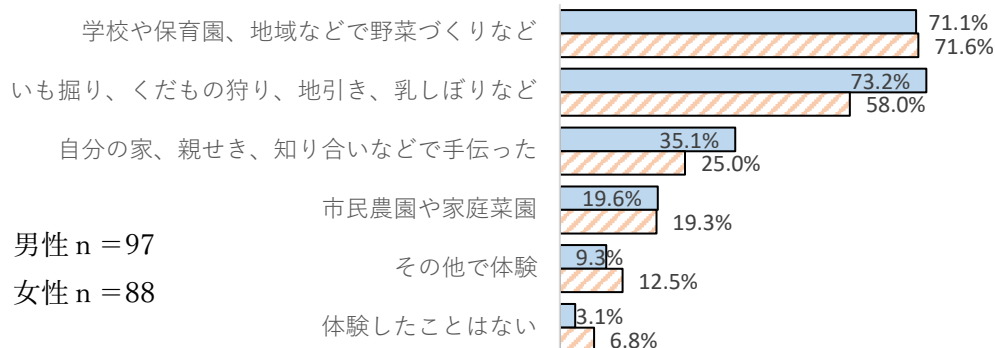
男女差が大きいものとして、「いも掘り、くだもの狩り、地引き網、乳しぼりなど」と回答した割合は、20歳代、80歳代、90歳代で女性が高くなっている。

実際に選択肢の構成を確認すると、性別での差が大きいのが「いも掘り、くだもの狩り、地引き網、乳しぼりなど」の観光的な体験であることが分かる。

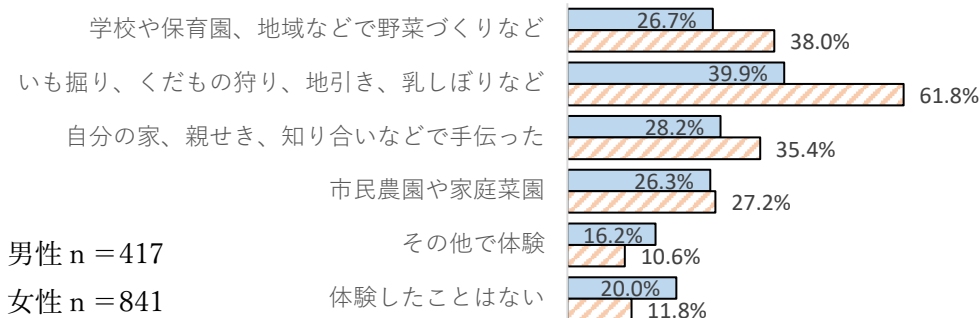


次に、小・中学生、15歳以上の性別での比較を行う。

### 小・中学生



### 15歳以上



小・中学生では男性が「いも掘り、くだもの狩り、地引き網、乳しぼりなど」の観光的な体験が多いが、15歳以上で男女逆転している。

農業や漁業体験の性別及び年代別の集計表

(回答数)

性別	学校や保育園、地域などで野菜づくりなどの体験			いも掘り、くだもの狩り、地引網、乳しぼりなど観光的な体験			自分の家、親せき、知り合いなどの農業や漁業を手伝った体験			市民農園や家庭菜園で農業を体験			その他で体験			体験したことはない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	54	47	1	53	38	1	23	15	1	16	14	0	7	9	1	3	3	0	286
中学生	15	16	0	18	13	0	11	7	0	3	3	0	2	2	0	0	3	0	93
15～19歳	3	7	0	3	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	20
20歳代	16	31	0	11	31	0	13	13	0	6	8	0	10	1	0	4	3	1	148
30歳代	24	81	1	27	84	1	14	45	0	13	31	0	6	12	1	5	12	1	358
40歳代	37	84	3	46	132	2	30	63	2	24	46	1	11	17	0	14	7	1	520
50歳代	15	55	2	38	114	2	26	67	4	17	45	2	10	21	0	17	17	0	452
60歳代	4	20	1	19	60	2	14	36	1	13	31	1	10	12	0	16	21	1	262
70歳代	8	35	0	17	70	0	11	50	0	25	51	0	13	18	0	20	23	1	342
80歳代	2	6	1	4	23	0	6	23	0	10	16	0	6	8	0	6	14	0	125
90歳代	3	1	0	2	2	0	3	1	0	2	1	0	1	0	0	2	1	0	19
全体	573			817			480			379			179			197			2,625
男性	181			238			152			129			77			87			864
女性	383			571			320			246			100			105			1,725
性別不明	9			8			8			4			2			5			36

⑦起床時の疲労感

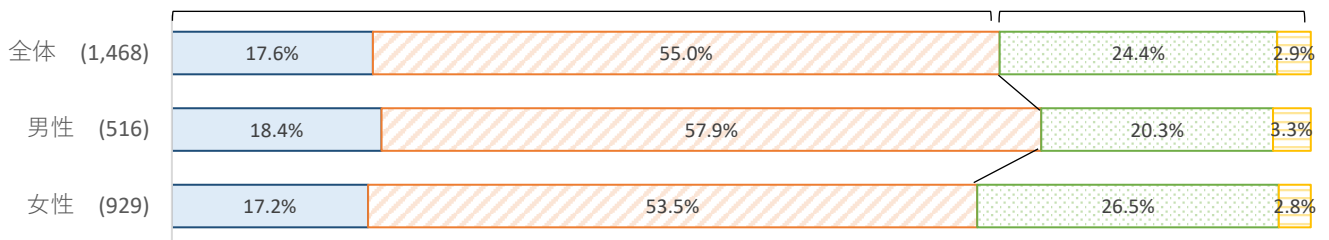
設問 7 朝、起きた時に疲れがとれていますか

全体 (n=1,468) ※全体には性別不明者23名含む

- 疲れがとれてすっきりしている
- 十分ではないが、疲れはとれている
- 疲れが残っている
- まったく疲れがとれていない

『疲労感がとれている (計)』 72.6%

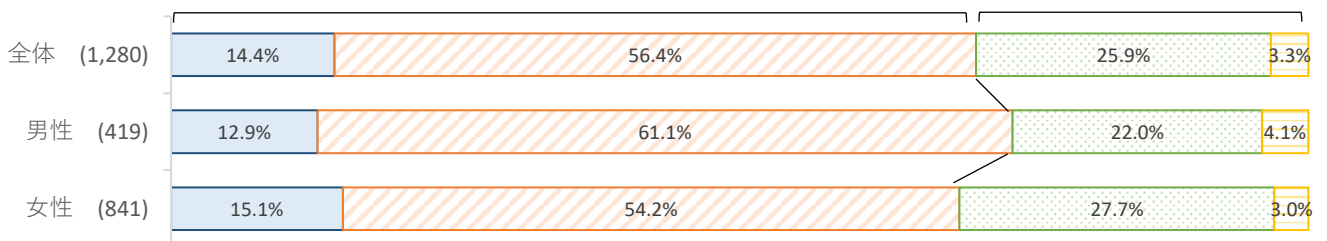
『疲労感がとれていない (計)』 27.3%



15歳以上 (n=1280) ※全体には性別不明者20名含む

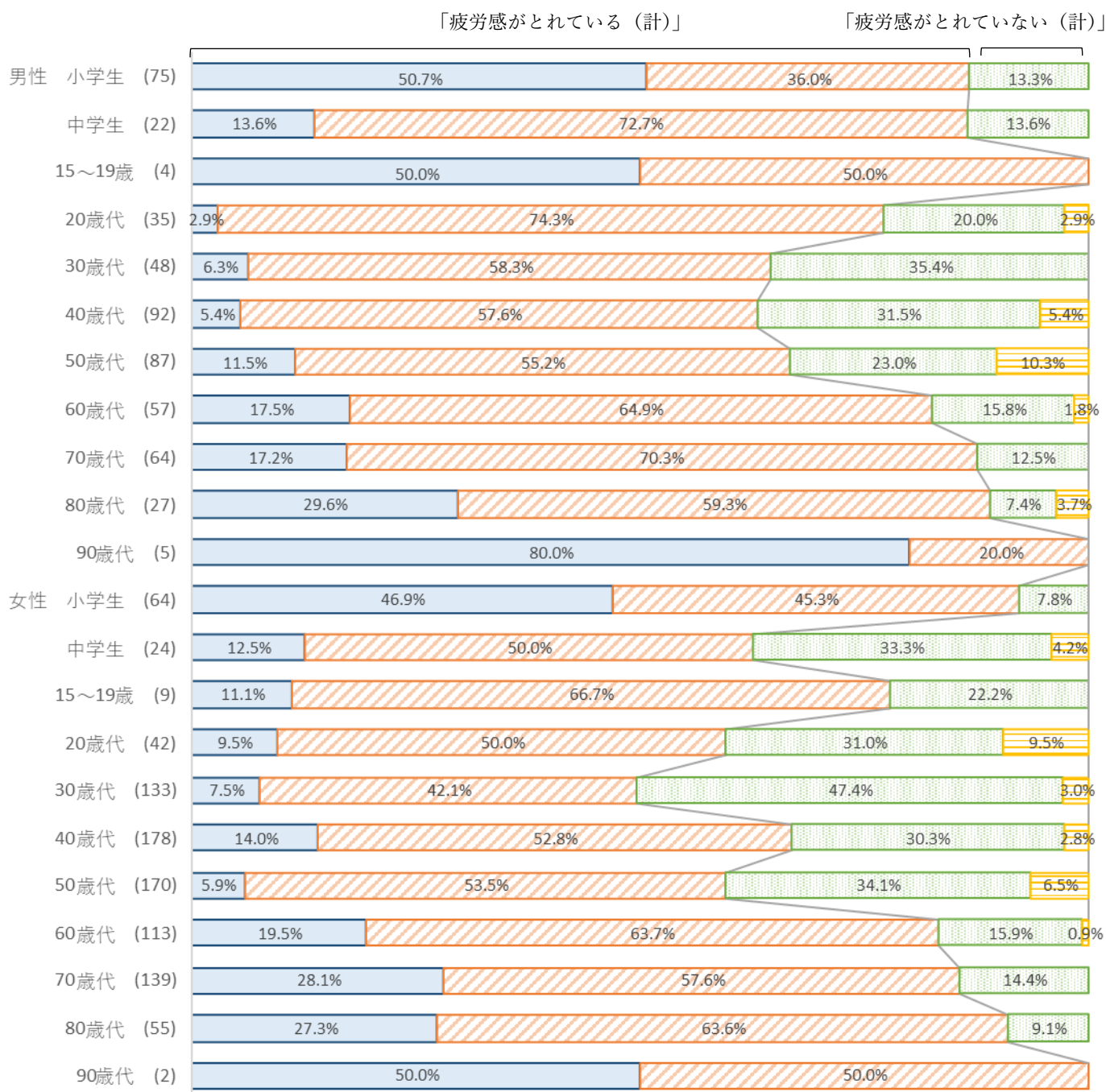
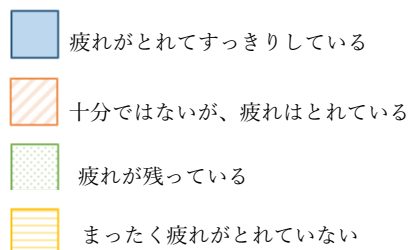
『疲労感がとれている (計)』 70.8%

『疲労感がとれていない (計)』 29.2%



疲れが取れていない割合は、全体と15歳以上の比較では差はあまり見られないが、性別でみると女性が男性よりも高くなっている。

性別・年代別



「疲労感がとれていない (計)」割合は、全体と比較すると 20 歳代以上で高く、60 歳代で低くなる傾向がみられ性別でみると女性が多い。30 歳代女性が 50.4%と最も多く、次いで 50 歳代女性 40.6%、20 歳代女性 40.5%となっている。男性では 30 歳代～50 歳代が多い。

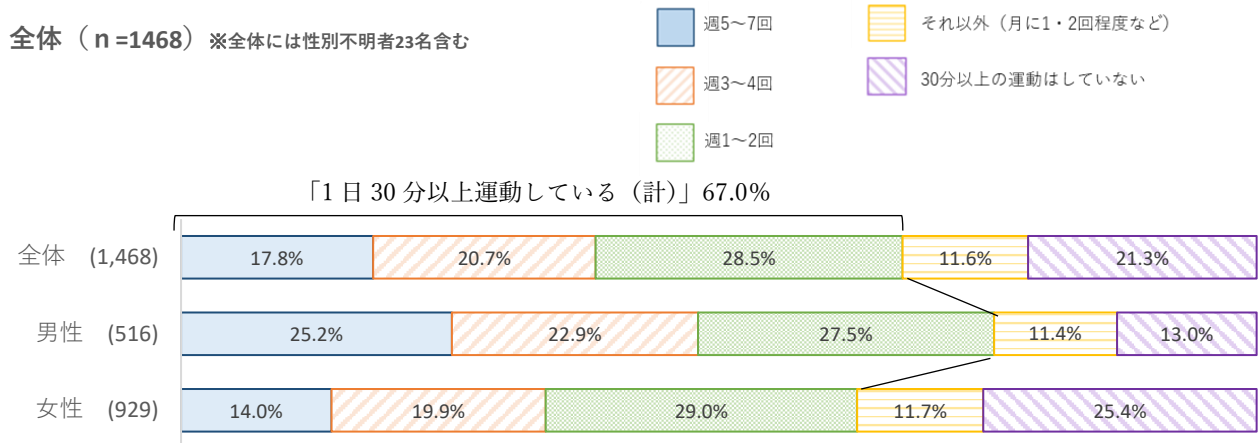
起床時の疲労感性別及び年代別の集計表

	疲れがとれて すっきりしている			十分ではないが 疲れはとれている			疲れが残っている			まったく疲れがとれ ていない			合計
	男性	女性	性別 不明	男性	女性	性別 不明	男性	女性	性別 不明	男性	女性	性別 不明	
小学生	38	30	1	27	29	2	10	5	0	0	0	0	142
中学生	3	3	0	16	12	0	3	8	0	0	1	0	46
15～19歳	2	1	0	2	6	0	0	2	0	0	0	0	13
20歳代	1	4	0	26	21	0	7	13	1	1	4	0	78
30歳代	3	10	1	28	56	1	17	63	0	0	4	0	183
40歳代	5	25	1	53	94	2	29	54	3	5	5	0	276
50歳代	10	10	0	48	91	5	20	58	1	9	11	0	263
60歳代	10	22	1	37	72	2	9	18	0	1	1	0	173
70歳代	11	39	0	45	80	0	8	20	1	0	0	0	204
80歳代	8	15	0	16	35	0	2	5	1	1	0	0	83
90歳代	4	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7
全体		259			808			358			43		1,468
男性		95			299			105			17		516
女性		160			497			246			26		929
性別不明		4			12			7			0		23

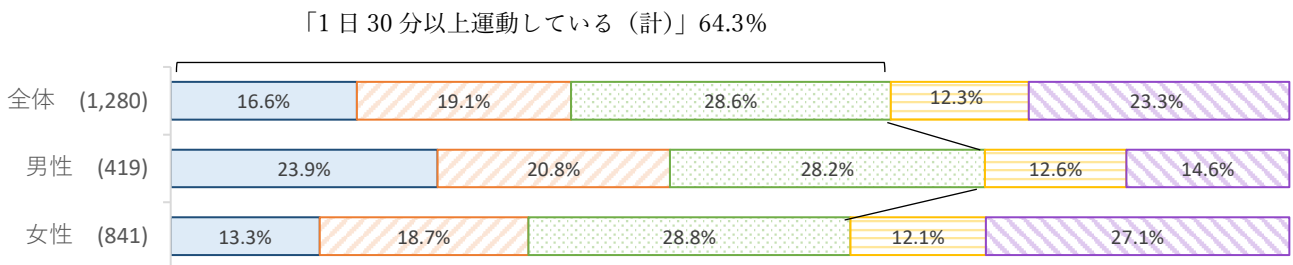
⑧ 運動の有無（1日30分以上の運動をしている割合）

設問8 30分以上の運動を週にどのくらいしていますか

（健康日本 21（第三次）では、「運動：身体活動の一部で、スポーツやフィットネスなどの、健康・体力の維持・増進を目的として、計画的・定期的を実施する活動」とあるが、本アンケートでは運動の定義を設定していないため、日常生活における家事、通勤や通学及び学校の授業等も含む。）



15歳以上（n=1280） ※全体には性別不明者20名含む

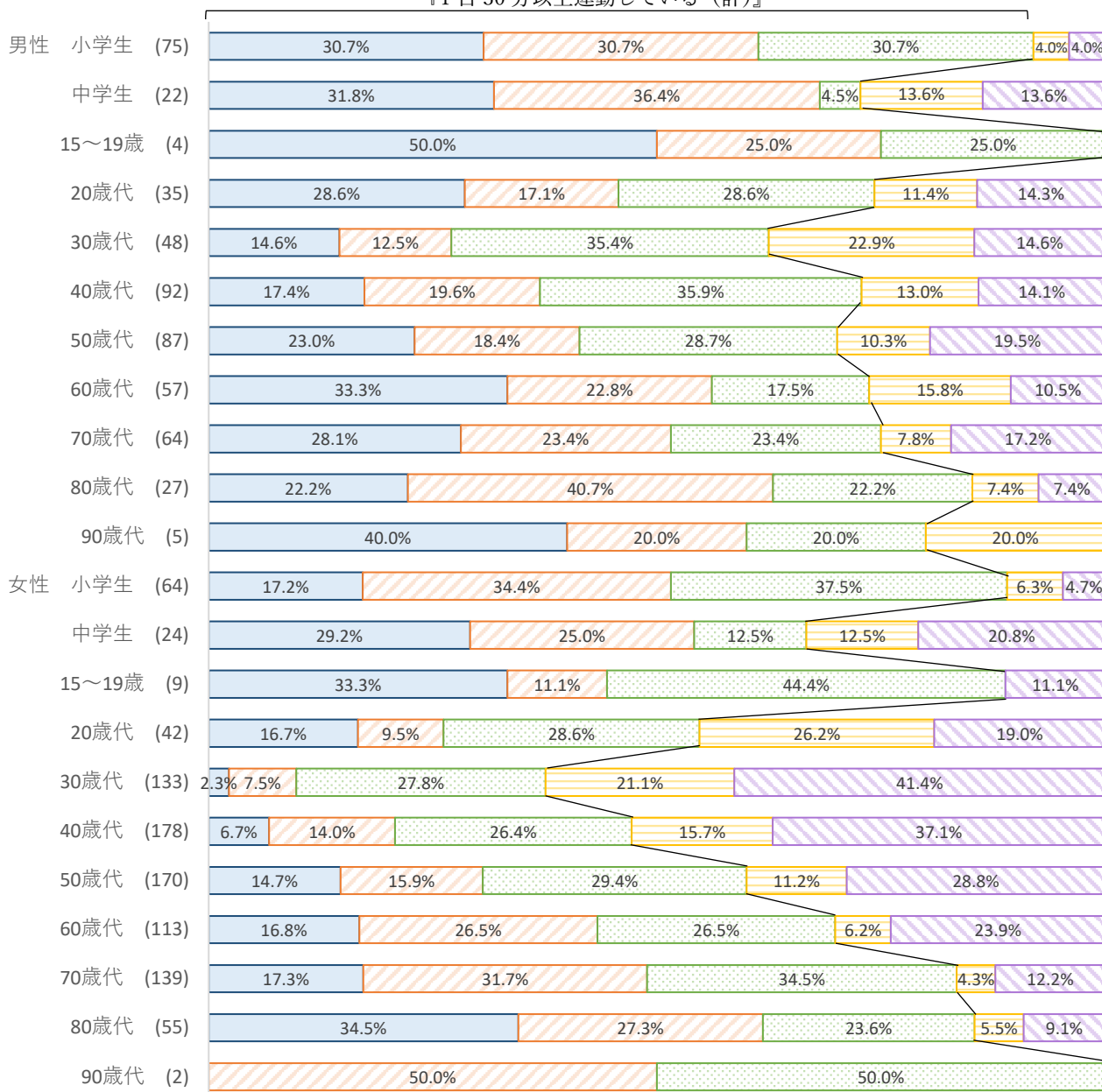


「1日30分以上運動している（計）」は、男性が多い。15歳以上でも、男性の割合が高くなっている。

性別・年代別



『1日30分以上運動している (計)』



年代別で比較すると、30歳代が最も低く、「30分以上の運動をしていない」の回答が最も多い。30歳代以降は年代が上がるに伴い1日30分以上の運動に取り組む市民の割合は高くなっている。

1日30分以上の運動をしている性別及び年代別の集計表

性別	週5～7回			週3～4回			週1～2回			それ以外 月1・2回程度など			していない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	23	11	1	23	22	0	23	24	2	3	4	0	3	3	0	142
中学生	7	7	0	8	6	0	1	3	0	3	3	0	3	5	0	46
15～19歳	2	3	0	1	1	0	1	4	0	0	0	0	0	1	0	13
20歳代	10	7	0	6	4	0	10	12	0	4	11	0	5	8	1	78
30歳代	7	3	0	6	10	0	17	37	1	11	28	0	7	55	1	183
40歳代	16	12	1	18	25	0	33	47	1	12	28	1	13	66	3	276
50歳代	20	25	0	16	27	0	25	50	2	9	19	1	17	49	3	263
60歳代	19	19	0	13	30	1	10	30	1	9	7	1	6	27	0	173
70歳代	18	24	0	15	44	0	15	48	0	5	6	0	11	17	1	204
80歳代	6	19	0	11	15	0	6	13	1	2	3	0	2	5	0	83
90歳代	2	0	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	7
全体	262			304			419			171			312			1,468
男性	130			118			142			59			67			516
女性	130			185			269			109			236			929
性別不明	2			1			8			3			9			23

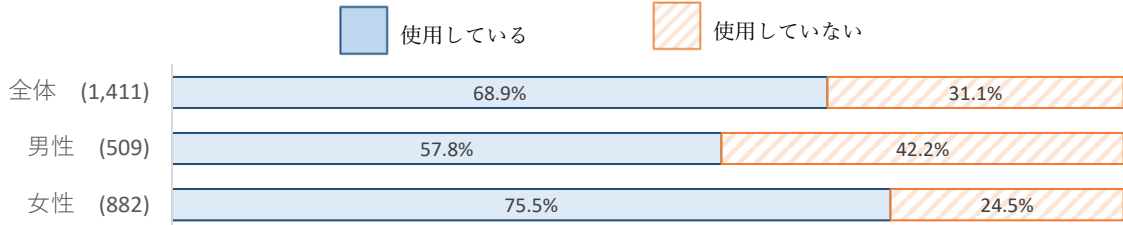
⑨ 歯間部清掃用具の使用有無

設問9 歯間部清掃用具を使って歯のケアをしていますか

9で「使用している」場合、何を使っていますか（複数選択可）

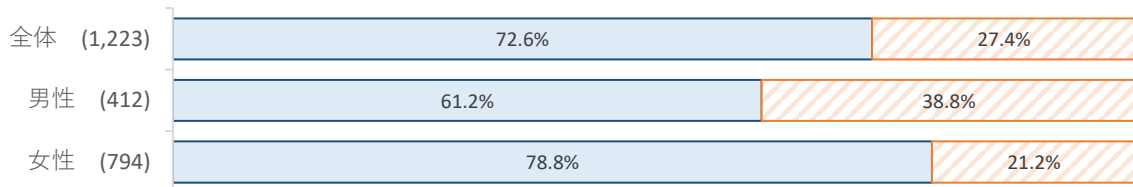
全体（n=1,411）※全体には性別不明者20名含む

オンラインアンケートの設定不備により57件回答なし

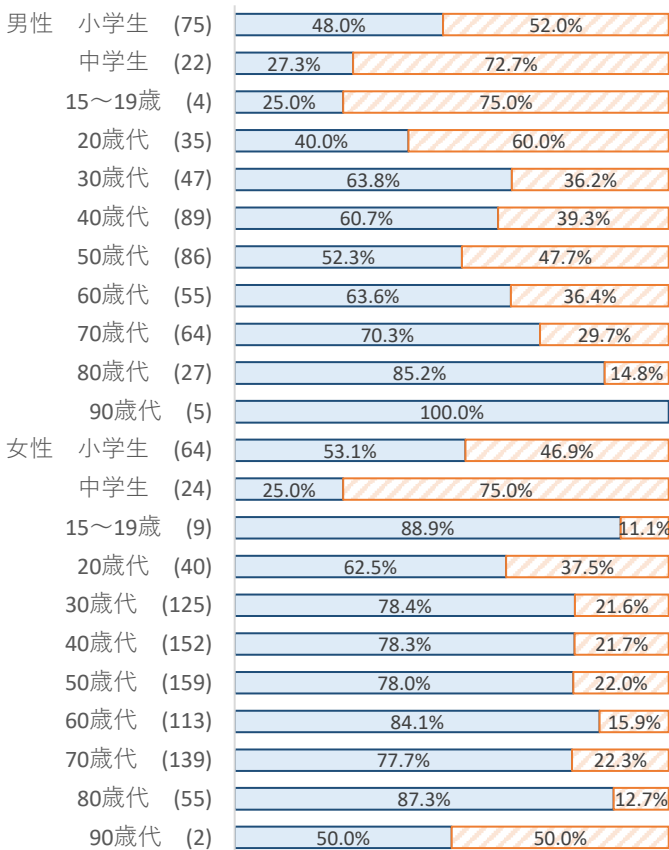


15歳以上（n=1,223）※全体には性別不明者17名含む

オンラインアンケートの設定不備により57件回答なし



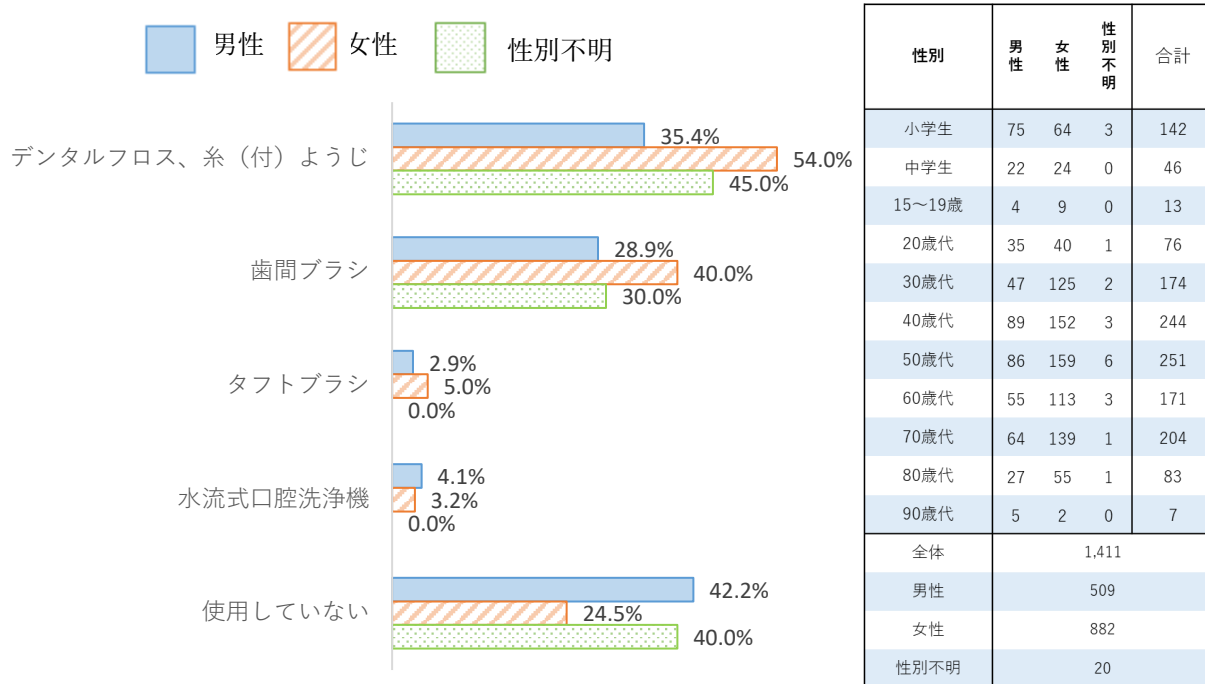
性別・年代別



性別	使用している			使用していない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	36	34	2	39	30	1	142
中学生	6	6	0	16	18	0	46
15～19歳	1	8	0	3	1	0	13
20歳代	14	25	0	21	15	1	76
30歳代	30	98	2	17	27	0	174
40歳代	54	119	1	35	33	2	244
50歳代	45	124	3	41	35	3	251
60歳代	35	95	3	20	18	0	171
70歳代	45	108	0	19	31	1	204
80歳代	23	48	1	4	7	0	83
90歳代	5	1	0	0	1	0	7
全体	972			439			1,411
男性	294			215			509
女性	666			216			882
性別不明	12			8			20

歯間部清掃用具を使用して歯のケアを行っているのは、女性の割合が高い。中学生は「使用していない」が他の年代と比較して高い。

使用している歯間部清掃用具の種類（複数選択可）



歯間部清掃用具は、「デンタルフロス、糸ようじ」「歯間ブラシ」を使用している割合が男女ともに高い。

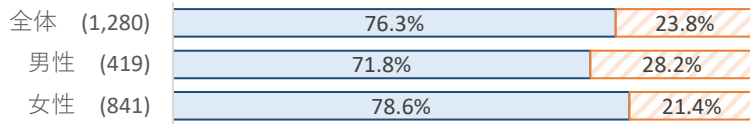
(回答数)

性別	デンタルフロス、糸ようじ			歯間ブラシ			タフトブラシ			水流式口腔洗浄機			使用していない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
小学生	29	29	1	6	6	1	1	4	0	1	1	0	39	30	1	149
中学生	4	6	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	16	18	0	47
15～19歳	1	3	0	0	4	0	0	1	0	0	1	0	3	1	0	14
20歳代	11	21	0	2	8	0	1	2	0	0	1	0	21	15	1	83
30歳代	25	86	2	9	30	0	0	4	0	1	3	0	17	27	0	204
40歳代	40	102	1	22	49	0	2	7	0	2	10	0	35	33	2	305
50歳代	27	103	3	23	55	2	6	6	0	3	5	0	41	35	3	312
60歳代	17	61	2	26	74	2	1	12	0	8	5	0	20	18	0	246
70歳代	16	51	0	34	83	0	3	7	0	5	2	0	19	31	1	252
80歳代	7	14	0	18	42	1	1	1	0	0	0	0	4	7	0	95
90歳代	3	0	0	5	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	11
全体	665			506			59			49			439			1,718
男性	180			147			15			21			215			578
女性	476			353			44			28			216			1,117
性別不明	9			6			0			0			8			23

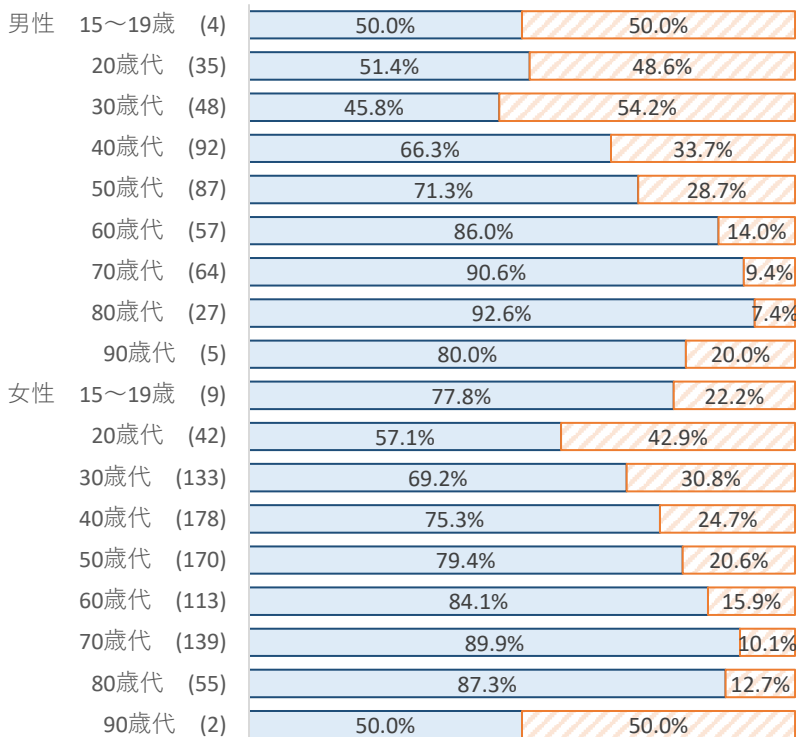
⑩ かかりつけ医の有無

設問 10 かかりつけ医をもっていますか

15歳以上 (n=1,280) ※全体には性別不明者20名含む



性別・年代別



	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15～19歳	2	7	0	2	2	0	13
20歳代	18	24	0	17	18	1	78
30歳代	22	92	1	26	41	1	183
40歳代	61	134	4	31	44	2	276
50歳代	62	135	5	25	35	1	263
60歳代	49	95	2	8	18	1	173
70歳代	58	125	1	6	14	0	204
80歳代	25	48	1	2	7	0	83
90歳代	4	1	0	1	1	0	7
全体	976			304			1,280
男性	301			118			419
女性	661			180			841
性別不明	14			6			20

かかりつけ医を持っている割合は全体で見ると 76.2%。性別で見ると女性が男性より 6.8 ポイント高い。男女ともに、年代が上がるとともにその割合は増加傾向にあり、80 歳代で減少に転じている。

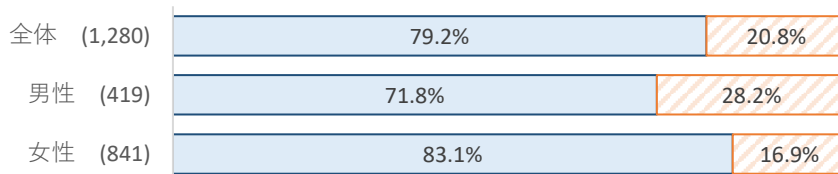
⑪ 歯周病が及ぼす全身への影響認知状況

設問 11 歯周病がさまざまな疾患に影響することを知っていますか

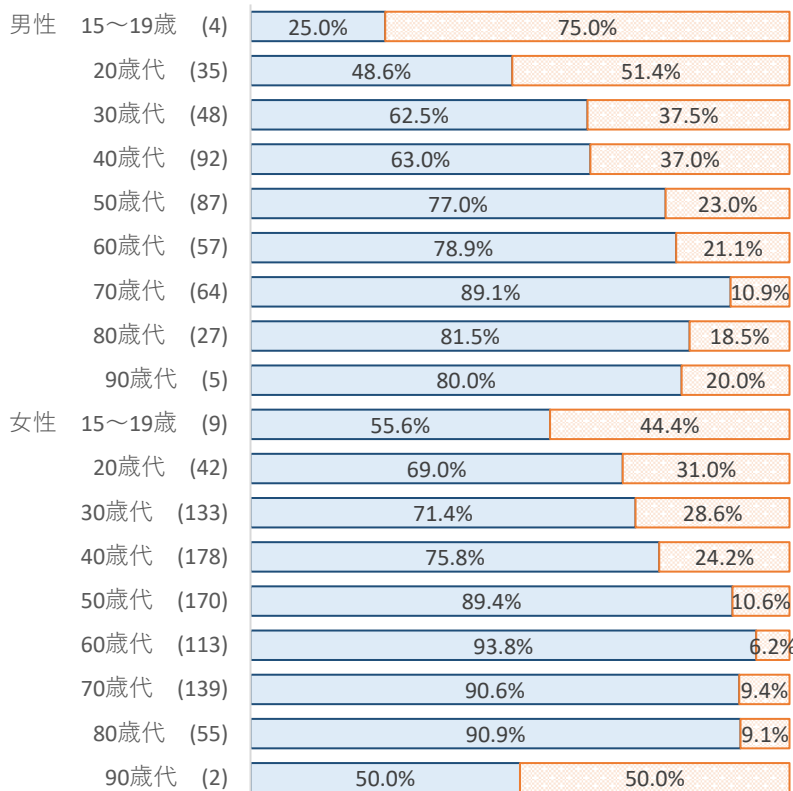
11で「知っている場合」(複数選択可)

15歳以上 (n=1,280) ※全体には性別不明者20名含む

知っている
  知らない



性別・年代別



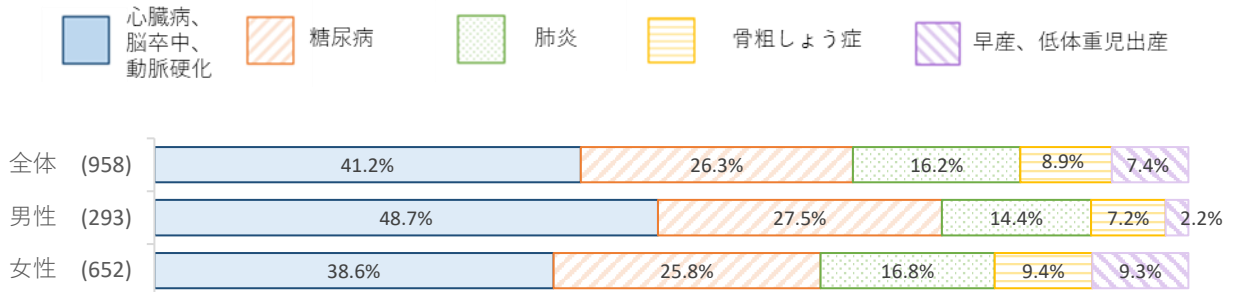
	知っている			知らない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15~19歳	1	5	0	3	4	0	13
20歳代	17	29	0	18	13	1	78
30歳代	30	95	1	18	38	1	183
40歳代	58	135	4	34	43	2	276
50歳代	67	152	5	20	18	1	263
60歳代	45	106	3	12	7	0	173
70歳代	57	126	1	7	13	0	204
80歳代	22	50	0	5	5	1	83
90歳代	4	1	0	1	1	0	7
全体	1,014			266			1,280
男性	301			118			419
女性	699			142			841
性別不明	14			6			20

全体で見ると、「知っている」が79.2%、性別で見ると、女性が男性より11.3ポイント高い。男女ともに、年代が上がるとともに「知っている」割合が増加傾向にある。

設問 11 で「知っている場合」、何に歯周病が影響すると知っているか（複数回答可）

**15歳以上（n=958）** ※全体には性別不明者13名含む

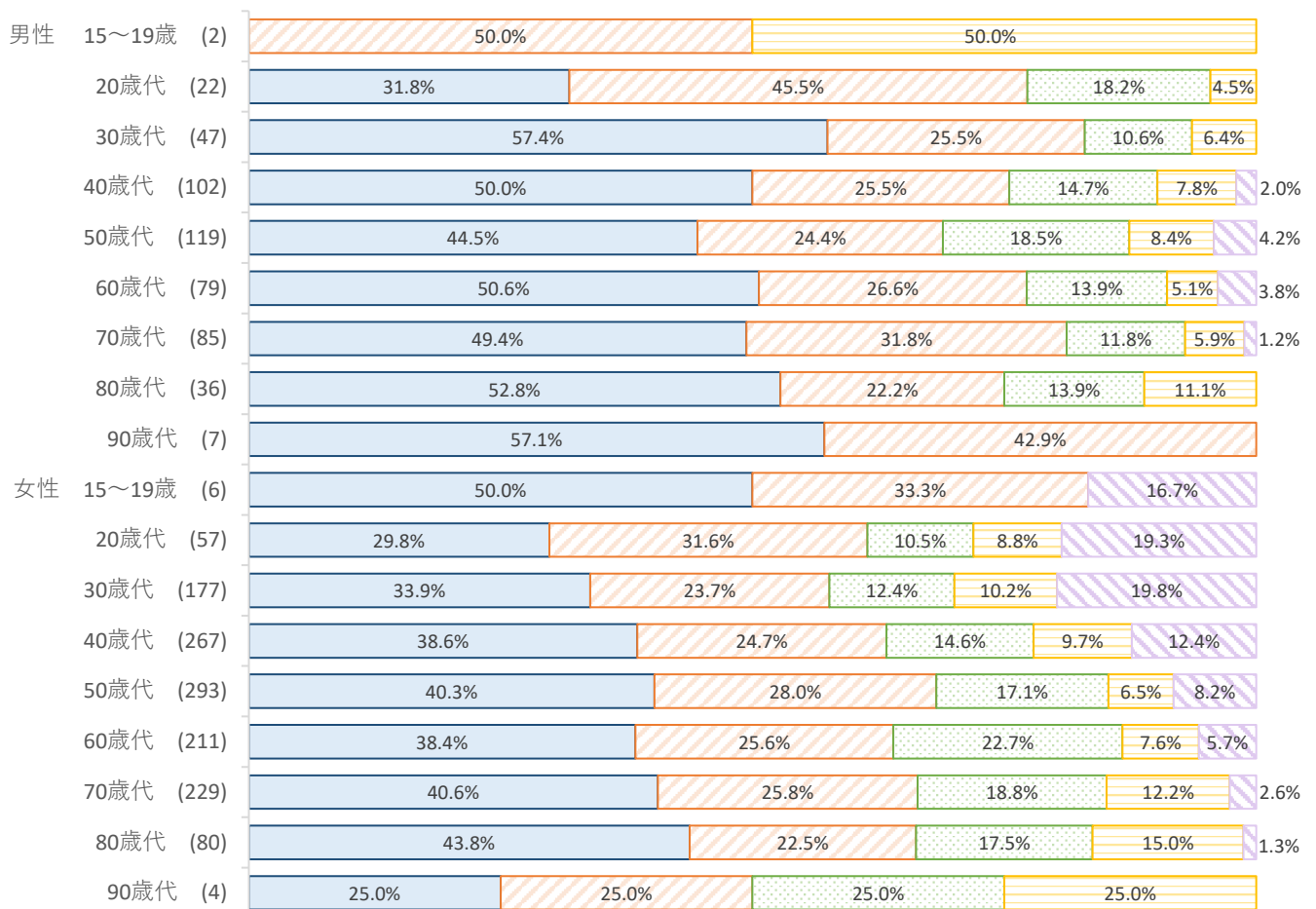
設問11で「知っている」と回答しているが、56件が何に歯周病が影響するかを選択なし



**性別・年代別（n = 1,853 回答数）**

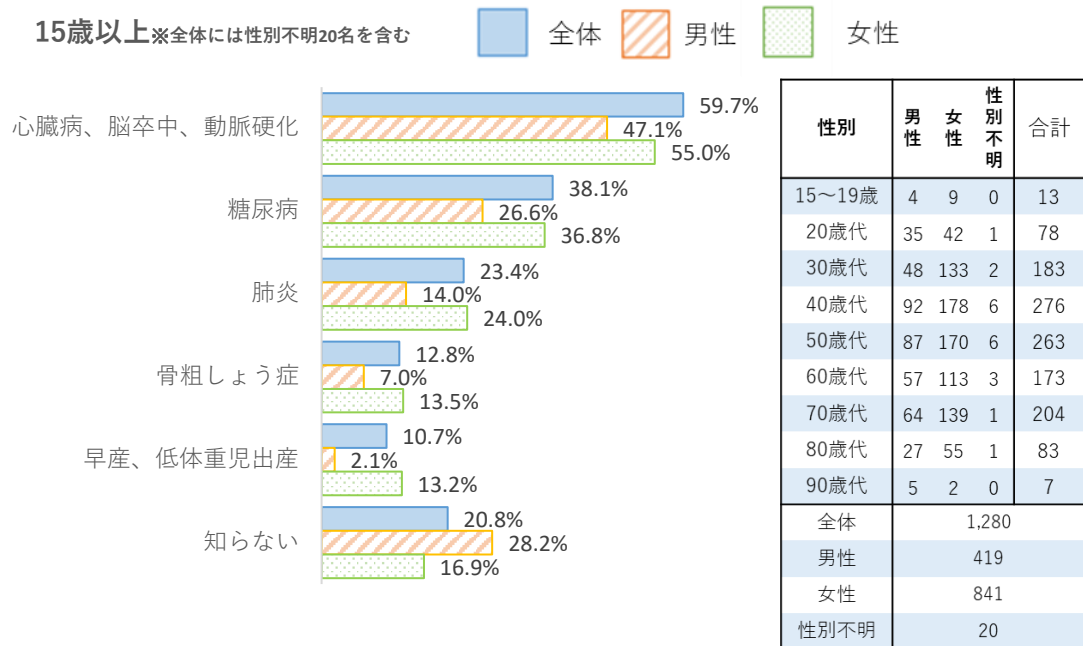
※回答者の人数は958名（男性293、女性652、性別不明13）

※下記グラフには性別不明者13名分の回答30件は含まない



歯周病が影響する疾患で、「心臓病、脳卒中、動脈硬化」を知っていると回答が多い。「骨粗しょう症」、「早産、低体重児出産」を知っている割合は女性が高く男性は低い。

次に、選択肢の全体での構成を確認する。



性別で比較すると知っている場合の全ての項目において女性の方が高い。

歯周病が及ぼす全身への影響認知に関する性別及び年代別の集計表

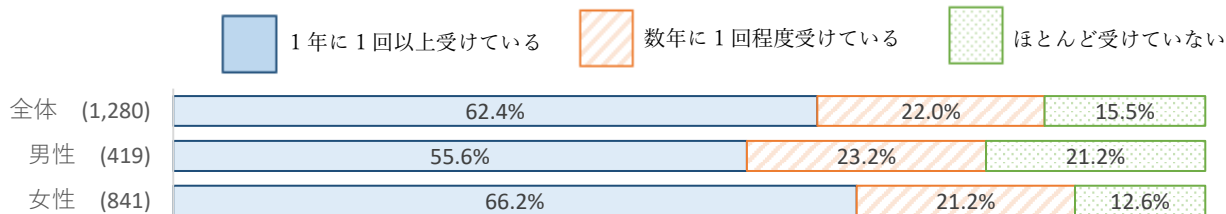
※設問 11 で「知っている」と回答しているが、56 件が何に歯周病が影響するかの選択なし

性別	心臓病 脳卒中 動脈硬化			糖尿病			肺炎			骨粗しょう症			早産 低体重児出 産			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15～19歳	0	3	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	8
20歳代	7	17	0	10	18	0	4	6	0	1	5	0	0	11	0	79
30歳代	27	60	0	12	42	1	5	22	0	3	18	0	0	35	0	225
40歳代	51	103	3	26	66	1	15	39	1	8	26	2	2	33	1	377
50歳代	53	118	4	29	82	5	22	50	4	10	19	1	5	24	2	428
60歳代	40	81	2	21	54	1	11	48	0	4	16	0	3	12	0	293
70歳代	42	93	1	27	59	1	10	43	0	5	28	0	1	6	0	316
80歳代	19	35	0	8	18	0	5	14	0	4	12	0	0	1	0	116
90歳代	4	1	0	3	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	11
全体	764			488			300			164			137			1,853
男性	243			137			72			36			11			499
女性	511			342			223			125			123			1,324
性別不明	10			9			5			3			3			30

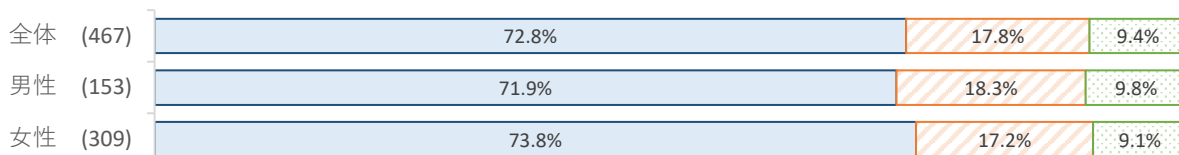
⑫ 歯科医院の受診状況

設問 12 1年に1回以上、歯科医院を受診していますか

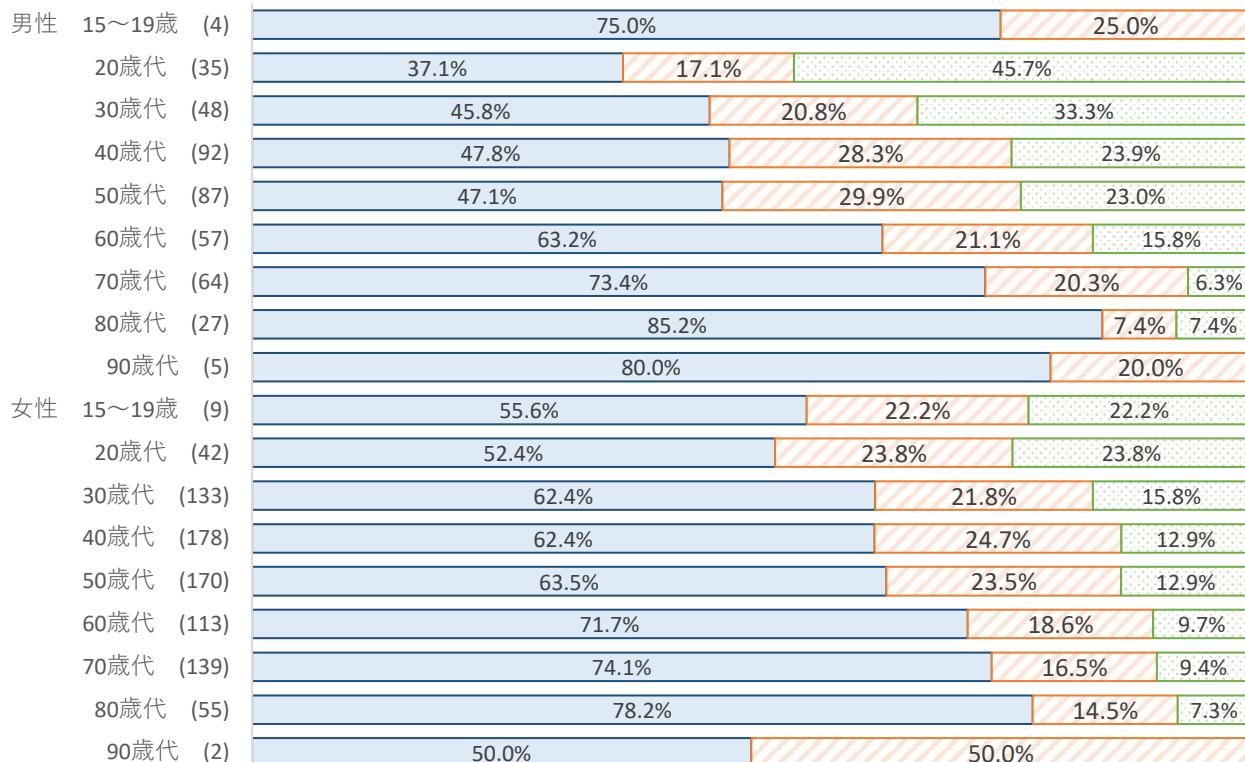
15歳以上 (n=1,280) ※全体には性別不明者20名含む



60歳以上 (n=467) ※全体には性別不明者5名含む



性別・年代別



歯科医院を「1年に1回以上受診している」割合は62.4%。「ほとんど受けていない」割合は男性21.2%、女性12.6%で、男性が8.6ポイント高い。年代が上がるにつれ、受診傾向にある。

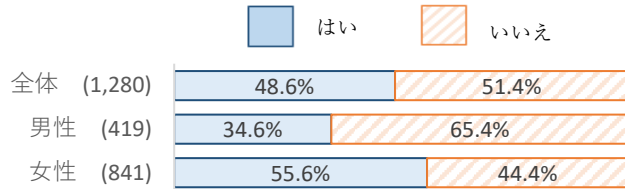
歯科医院の定期的な受診状況に関する性別及び年代別の集計表

性別	1年に1回 以上受診			数年に1回 程度受診			ほとんど受診 していない			合計
	男性	女性	性別 不明	男性	女性	性別 不明	男性	女性	性別 不明	
15～19歳	3	5	0	1	2	0	0	2	0	13
20歳代	13	22	0	6	10	0	16	10	1	78
30歳代	22	83	1	10	29	1	16	21	0	183
40歳代	44	111	2	26	44	3	22	23	1	276
50歳代	41	108	4	26	40	1	20	22	1	263
60歳代	36	81	1	12	21	1	9	11	1	173
70歳代	47	103	0	13	23	1	4	13	0	204
80歳代	23	43	1	2	8	0	2	4	0	83
90歳代	4	1	0	1	1	0	0	0	0	7
全体	799			282			199			1,280
男性	233			97			89			419
女性	557			178			106			841
性別不明	9			7			4			20

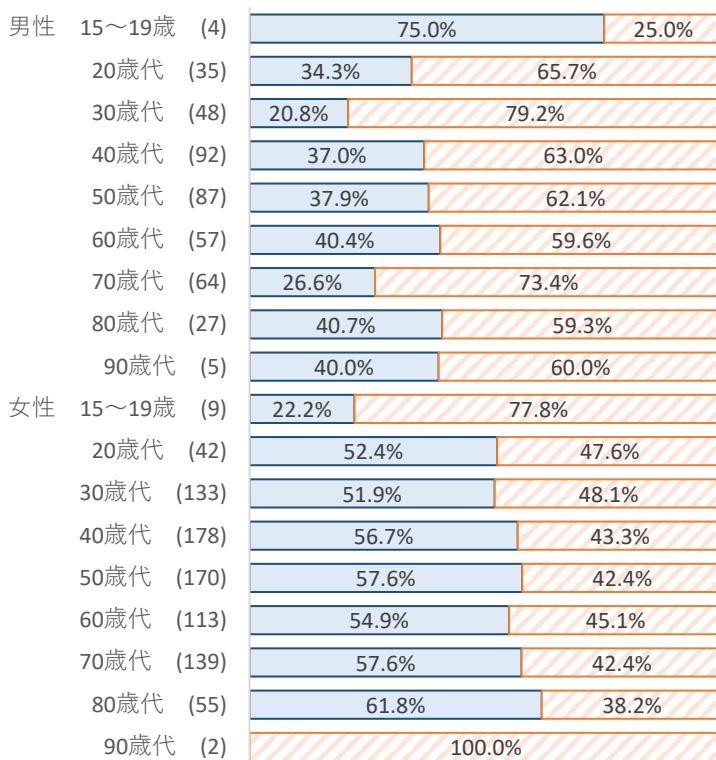
⑬ 栄養成分表示の活用有無

設問 13 外食や食品を選ぶときに、栄養成分表示を活用していますか

15歳以上 (n=1,280) ※全体には性別不明者20名含む



性別・年代別



性別	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15~19歳	3	2	0	1	7	0	13
20歳代	12	22	1	23	20	0	78
30歳代	10	69	0	38	64	2	183
40歳代	34	101	1	58	77	5	276
50歳代	33	98	4	54	72	2	263
60歳代	23	62	2	34	51	1	173
70歳代	17	80	0	47	59	1	204
80歳代	11	34	1	16	21	0	83
90歳代	2	0	0	3	2	0	7
全体	622			658			1,280
男性	145			274			419
女性	468			373			841
性別不明	9			11			20

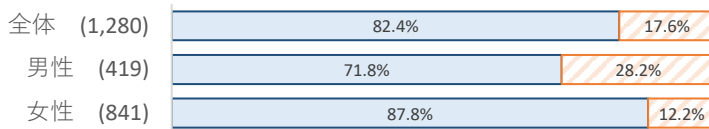
外食等における栄養成分表示の活用割合は、全体では48.6%と半数に満たないものの、女性では55.6%と高い。20歳代から80歳代までの各年代において、女性の活用割合は同年代の男性よりかなり高い。

⑭ 食品の安全性に関する知識の有無

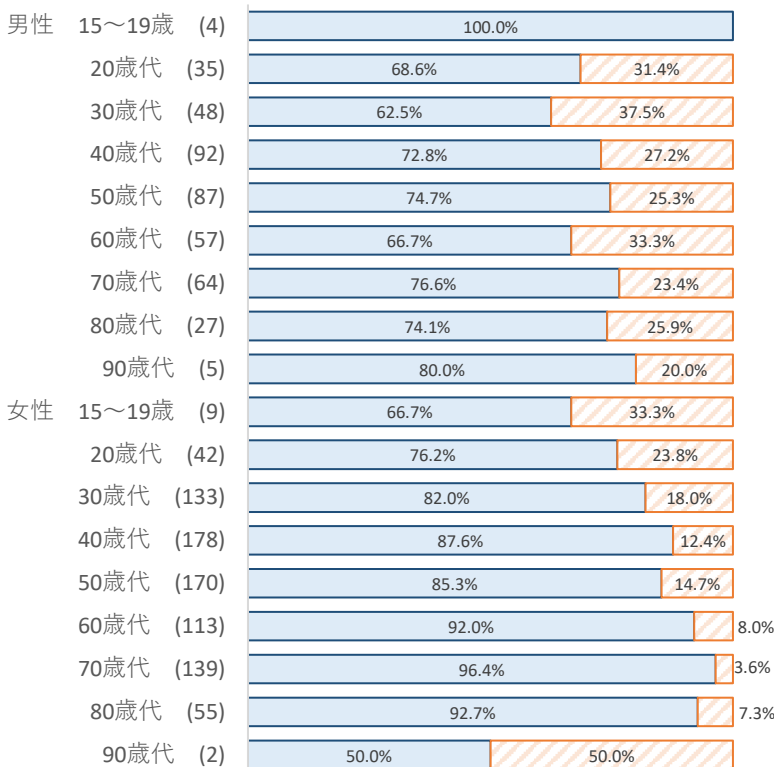
設問 14 食品の安全性に関する基礎的な知識（賞味期限、原材料など）を持っていますか

15歳以上（n=1,280） ※全体には性別不明者も含む

■ はい □ いいえ



性別・年代別



	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15～19歳	4	6	0	0	3	0	13
20歳代	24	32	1	11	10	0	78
30歳代	30	109	1	18	24	1	183
40歳代	67	156	5	25	22	1	276
50歳代	65	145	5	22	25	1	263
60歳代	38	104	2	19	9	1	173
70歳代	49	134	1	15	5	0	204
80歳代	20	51	1	7	4	0	83
90歳代	4	1	0	1	1	0	7
全体	1,055			225			1,280
男性	301			118			419
女性	738			103			841
性別不明	16			4			20

全体で見ると、食品の安全性に関する知識の有無について、82.4%が「はい」と回答しており、女性が男性よりも16.0ポイント高くなっている。特に、女性の30歳代から80歳代で8割以上と高くなっている。

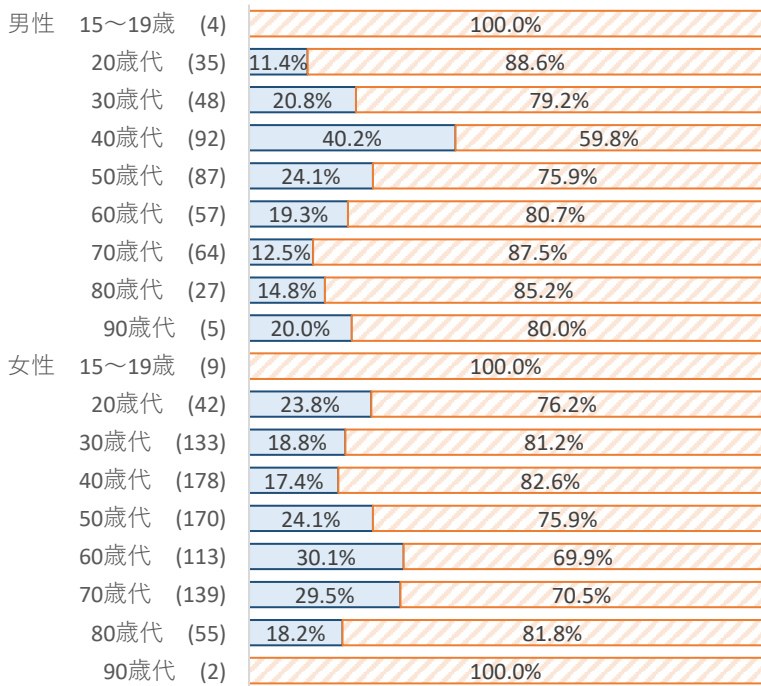
⑮ 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯つびい計画の認知度

設問 15 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯つびい計画を知っていますか

15歳以上 (n=1,280) ※全体には性別不明者20名含む



性別・年代別



性別	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
15～19歳	0	0	0	4	9	0	13
20歳代	4	10	0	31	32	1	78
30歳代	10	25	0	38	108	2	183
40歳代	37	31	3	55	147	3	276
50歳代	21	41	1	66	129	5	263
60歳代	11	34	1	46	79	2	173
70歳代	8	41	0	56	98	1	204
80歳代	4	10	0	23	45	1	83
90歳代	1	0	0	4	2	0	7
全体	293			987			1,280
男性	96			323			419
女性	192			649			841
性別不明	5			15			20

全体で見ると、「はい」の回答は22.9%であり、性別で差はみられない。15～19歳には全く知られていない。

⑩ 喫煙の有無

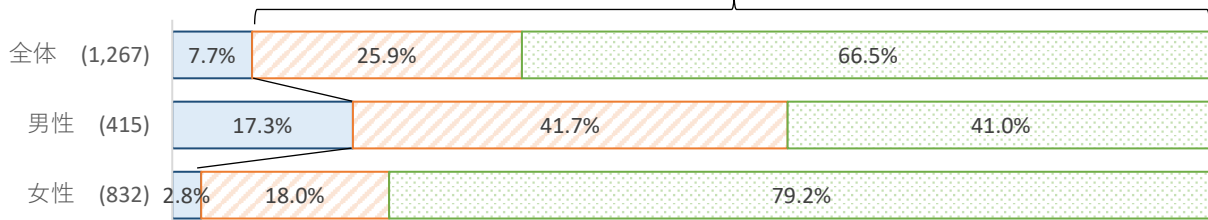
設問 16 たばこを吸っていますか

20歳以上 (n=1267)

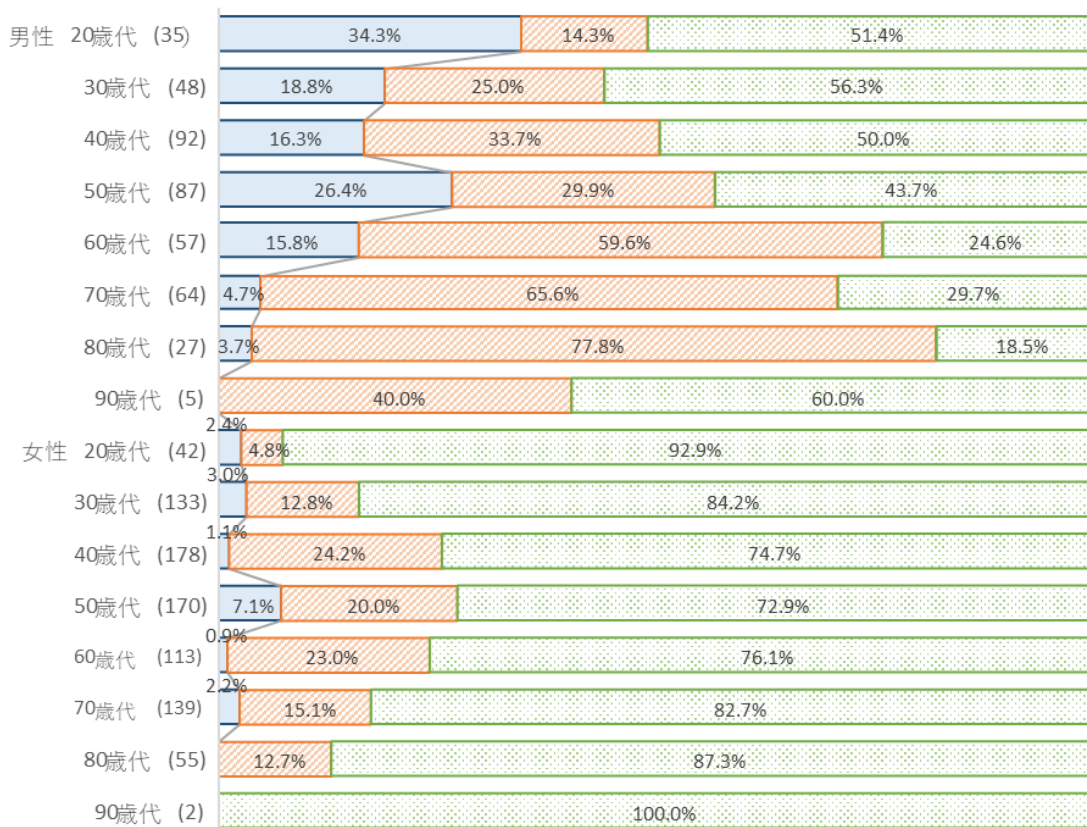
※全体には性別不明者20名含む

吸っている
  以前、吸っていたことがある
  吸ったことがない

「たばこを吸わない (計)」 92.4%



性別・年代別



全体で見ると、たばこを「吸っているが」7.7%であり、20歳代～60歳代男性が全体よりも高い。男性20歳代が最も高くなっている。

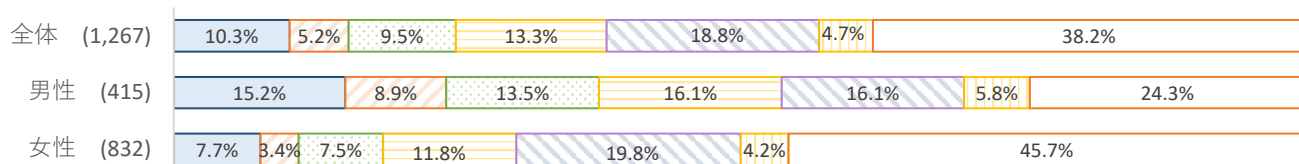
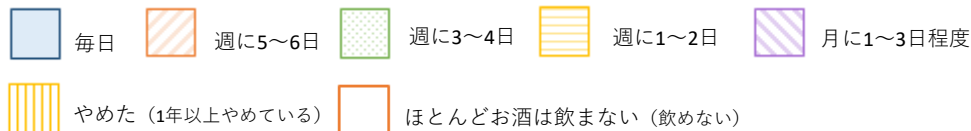
喫煙の有無に関する性別及び年代別の集計表

性別	吸っている			以前、吸っていたことがある			吸ったことがない			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
20歳代	12	1	1	5	2	0	18	39	0	78
30歳代	9	4	0	12	17	0	27	112	2	183
40歳代	15	2	0	31	43	2	46	133	4	276
50歳代	23	12	1	26	34	1	38	124	4	263
60歳代	9	1	0	34	26	2	14	86	1	173
70歳代	3	3	0	42	21	0	19	115	1	204
80歳代	1	0	0	21	7	0	5	48	1	83
90歳代	0	0	0	2	0	0	3	2	0	7
全体	97			328			842			1,267
男性	72			173			170			415
女性	23			150			659			832
性別不明	2			5			13			20

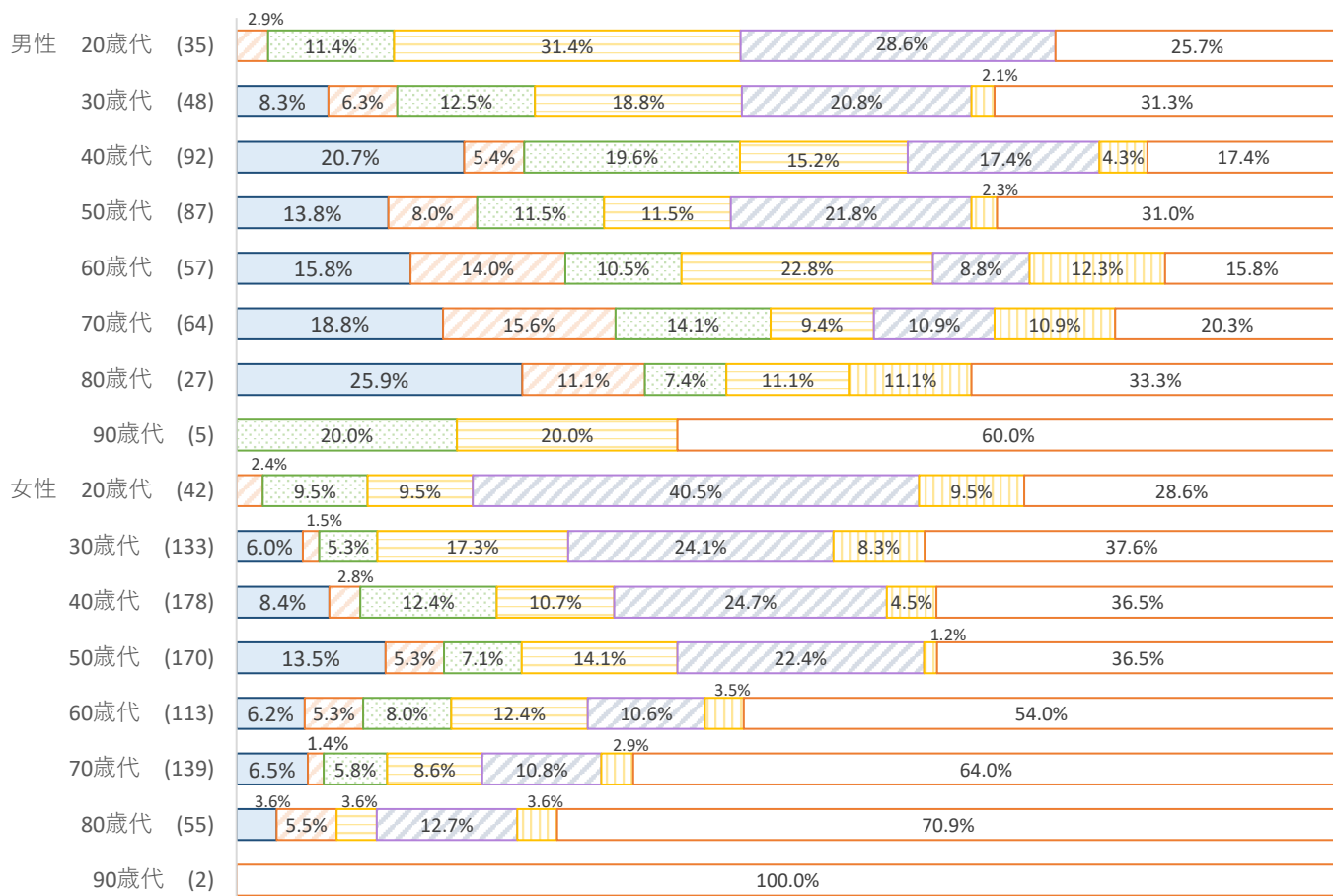
⑰ 飲酒の有無と頻度について

設問 17 お酒はどのくらいの頻度で飲みますか

20歳以上 (n=1,267) ※全体には性別不明者20名含む



性別・年代別



全体で見ると、「ほとんどお酒は飲まない (飲めない)」の回答が 38.2%となっており、「ほとんどお酒は飲まない (飲めない)」と「やめた (1年以上やめている)」の合計は、男性 30.1%、女性 49.9%で女性が 19.8ポイント高い。「毎日」の回答割合は、各年代で男性の方が高く、女性は 50歳代が高くなっている。

飲酒の頻度に関する性別及び年代別の集計表

性別	毎日			週に5~6日			週に3~4日			週に1~2日			月に1~3日程度			やめた (1年以上やめている)			ほとんどお酒は飲まない (飲めない)			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
20歳代	0	0	0	1	1	0	4	4	1	11	4	0	10	17	0	0	4	0	9	12	0	78
30歳代	4	8	0	3	2	0	6	7	0	9	23	0	10	32	1	1	11	0	15	50	1	183
40歳代	19	15	1	5	5	1	18	22	0	14	19	3	16	44	1	4	8	0	16	65	0	276
50歳代	12	23	1	7	9	0	10	12	0	10	24	1	19	38	3	2	2	0	27	62	1	263
60歳代	9	7	1	8	6	0	6	9	0	13	14	0	5	12	1	7	4	0	9	61	1	173
70歳代	12	9	0	10	2	0	9	8	0	6	12	0	7	15	0	7	4	1	13	89	0	204
80歳代	7	2	0	3	3	0	2	0	1	3	2	0	0	7	0	3	2	0	9	39	0	83
90歳代	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	0	7
全体	130			66			120			169			238			60			484			1,267
男性	63			37			56			67			67			24			101			415
女性	64			28			62			98			165			35			380			832
性別不明	3			1			2			4			6			1			3			20

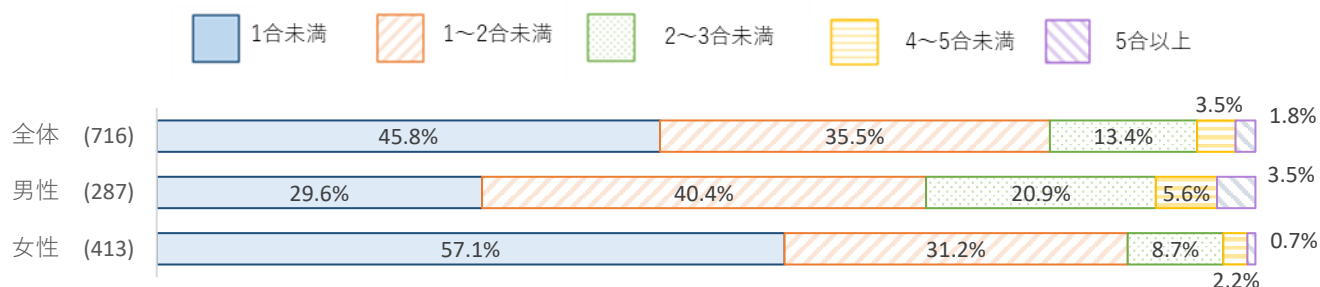
⑱ 1日あたりの飲酒量

設問 18 お酒を飲む日は、どのくらいの量を飲みますか

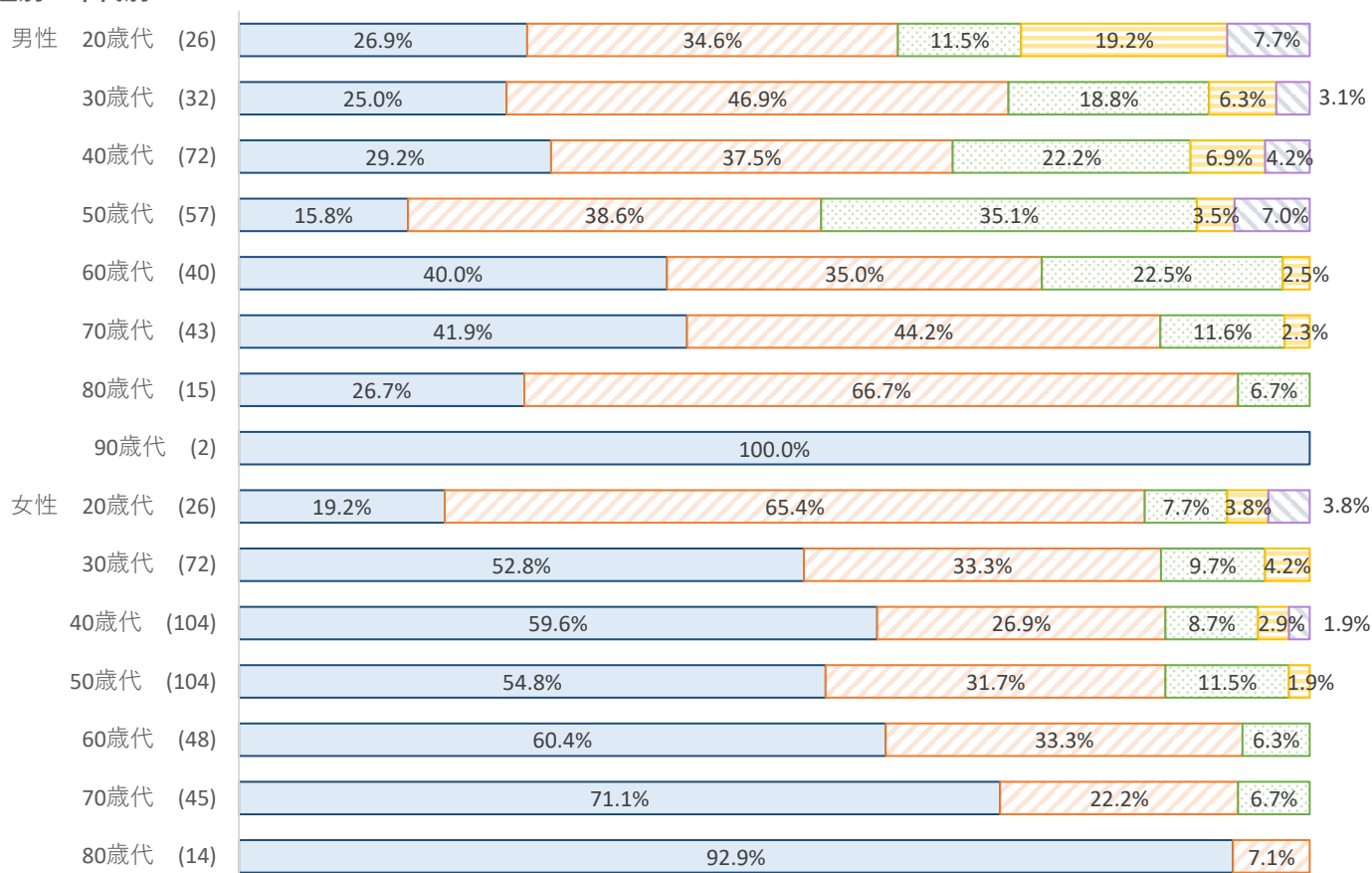
※お酒を飲む頻度が、月1～3日以上の方が回答。

オンラインアンケートの設定不備により、7件回答なし

20歳以上 (n=716) ※全体には性別不明者16名含む



性別・年代別



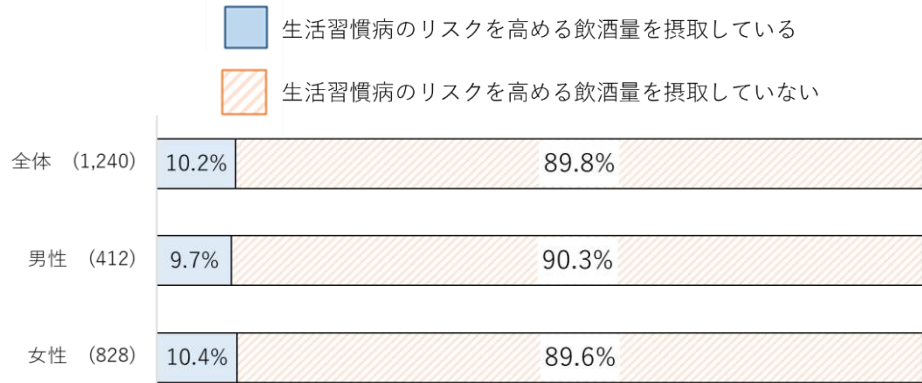
全体で見ると、1日あたりの飲酒量は1合未満の割合が最も高い。男性は1～2合未満の割合が40.4%と最も高く、5合以上は20歳代、50歳代が他の年代と比較して高くなっている。女性は20歳代で1～2合未満の割合が高いが、それ以降の年代では1合未満が高くなっている。男女ともに50歳代で2～3合の割合が他の年代と比較して高い。

飲酒をする人の一日あたりの飲酒量に関する性別及び年代別の集計表

性別	1合未満			1～2合未満			2～3合未満			4～5合未満			5合以上			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
20歳代	7	5	0	9	17	1	3	2	0	5	1	0	2	1	0	53
30歳代	8	38	0	15	24	1	6	7	0	2	3	0	1	0	0	105
40歳代	21	62	3	27	28	3	16	9	0	5	3	0	3	2	0	182
50歳代	9	57	3	22	33	2	20	12	0	2	2	0	4	0	0	166
60歳代	16	29	1	14	16	1	9	3	0	1	0	0	0	0	0	90
70歳代	18	32	0	19	10	0	5	3	0	1	0	0	0	0	0	88
80歳代	4	13	0	10	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	30
90歳代	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
全体	328			254			96			25			13			716
男性	85			116			60			16			10			287
女性	236			129			36			9			3			413
性別不明	7			9			0			0			0			16

【生活習慣病のリスクを高める飲酒量を摂取している割合】

「生活習慣病のリスクを高める飲酒量」(純アルコール摂取量)とは、男性で1日平均 40g以上、女性 20g以上のことです。(健康日本21(第3次)より)



※アンケートの設定不備で無回答となった7名は含めません。

※性別不明者は男女で基準が異なるため、回答数には含めません。

(男性 単位：人)

	回答者数	1合未満	1~2合未満	2~3合未満	4~5合未満	5合以上
毎日	63	10	33	18	2	0
週に5~6日	36	13	16	6	1	0
週に3~4日	56	19	22	11	3	1
週に1~2日	65	23	24	11	7	0
月に1~3日程度	67	20	21	14	3	9
やめた	24					
ほとんどお酒は飲まない	101					
合計(男性)	412	85	116	60	16	10

(女性 単位：人)

	回答者数	1合未満	1~2合未満	2~3合未満	4~5合未満	5合以上
毎日	64	26	29	7	2	0
週に5~6日	28	8	16	4	0	0
週に3~4日	60	38	17	3	1	1
週に1~2日	97	64	23	6	4	0
月に1~3日程度	164	100	44	16	2	2
やめた	35					
ほとんどお酒は飲まない	380					
合計(女性)	828	236	129	36	9	3

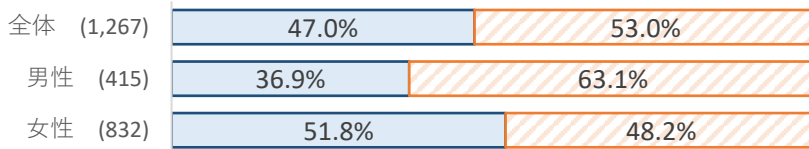
生活習慣病のリスクを高める飲酒量を摂取している割合は、性別で見ると、女性が0.7ポイント高くなっている。

⑱ オーラルフレイルの認知状況

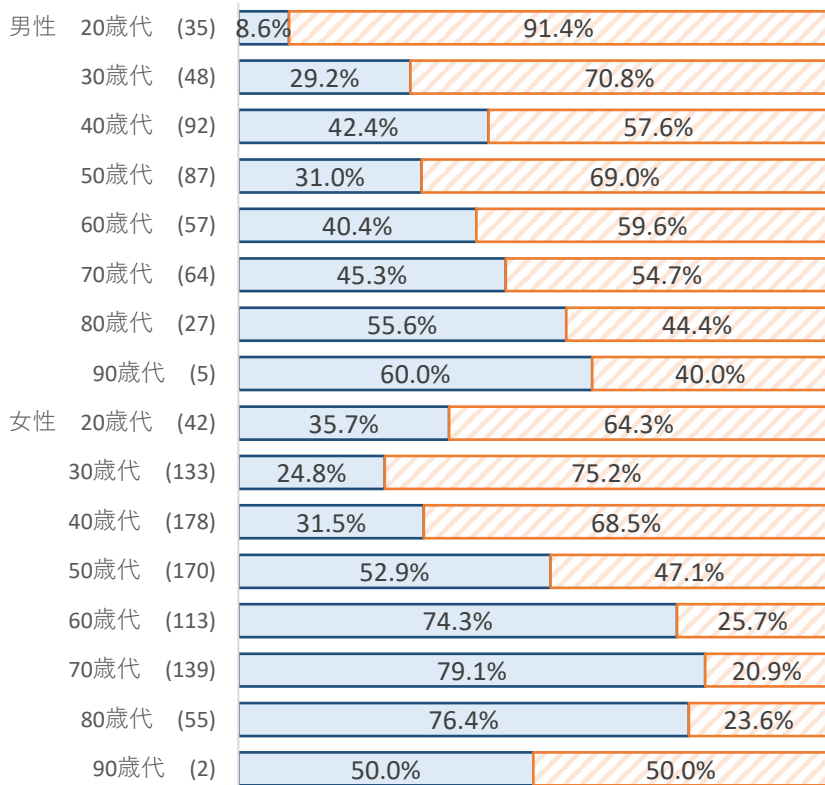
設問 19 オーラルフレイルを知っていますか

20歳以上 (n=1267) ※全体には性別不明者20名含む

はい いいえ



性別・年代別



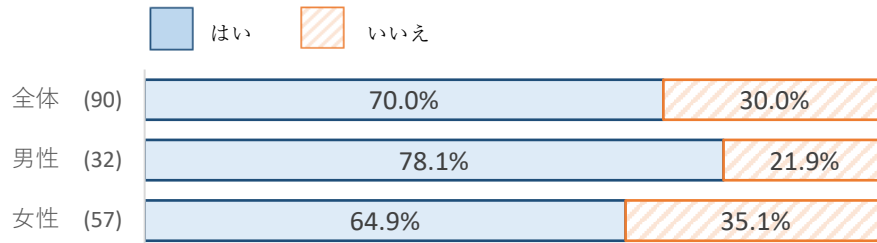
性別	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
20歳代	3	15	0	32	27	1	78
30歳代	14	33	1	34	100	1	183
40歳代	39	56	3	53	122	3	276
50歳代	27	90	4	60	80	2	263
60歳代	23	84	3	34	29	0	173
70歳代	29	110	0	35	29	1	204
80歳代	15	42	0	12	13	1	83
90歳代	3	1	0	2	1	0	7
全体	595			672			1,267
男性	153			262			415
女性	431			401			832
性別不明	11			9			20

性別で見ると、「オーラルフレイルを知っている」割合は女性が男性よりも14.9ポイント高くなっている。男女ともに年齢が上がるほどに認知度は上昇傾向にあるが、女性は50歳代から過半数が「知っている」と回答したが、男性は各年代で女性を下回り、5割を超えるのは80歳代に入ってからとなっている。

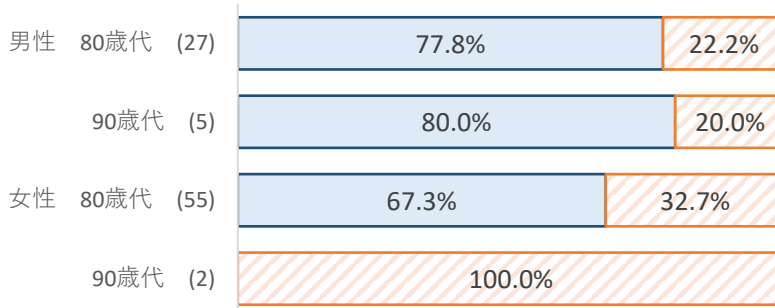
② 20 本以上の歯の有無

設問 20 20 本以上自分の歯がありますか

80歳代以上 (n=90) ※全体には性別不明者1名含む



性別・年代別



性別	はい			いいえ			合計
	男性	女性	性別不明	男性	女性	性別不明	
80歳代	21	37	1	6	18	0	83
90歳代	4	0	0	1	2	0	7
全体	63			27			90
男性	25			7			32
女性	37			20			57
性別不明	1			0			1

80 歳以上で 20 本以上自分の歯を有している割合は 70.0%。性別で見ると、男性の割合が高い。

(2) 計画策定時よりも改善した指標

計画策定時の現状値（令和元年度）とアンケートを実施した時点の値（令和7年度）において、改善した指標についてまとめました。傾向を比較するため構成比（%）を用いて算出しています。

[第3次茅ヶ崎市食育推進計画]

第3次茅ヶ崎市食育推進計画 成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)		計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和7年度)	目標 (令和12年度)
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合		63.9%	82.4%	69.0%
農業・漁業を体験したことがある市民の割合	小学生・中学生	91.3%	95.2%	95.0%以上
	15歳以上	73.5%	85.3%	90.0%以上
令和元年度：朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数(単身者を除く) 令和7年度：朝食又は夕食を誰かと一緒に食べる回数 *1	小学生・中学生	平均週11回	平均週13回	週11回以上
朝食を食べている市民の割合		79.9%	82.2%	85.0%
1日2回以上主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほとんど毎日食べている市民の割合	15歳以上	57.6%	71.2%	63.0%
	20歳代・30歳代	37.4%	60.2%	42.0%

\*1 指標を「家族」から「誰かと」へ変更しました。「共食」は、家族に限らず友人や地域の方との食事についても含まれるため、調査する際の対象を変更しました。

食の安全性に関する知識の定着に加え、農業・漁業体験や共食、朝食摂取、バランスのとれた食事の実践など、知識と行動の双方の指標において改善がみられます。これは、学校・地域・家庭を通じた食育や継続的な普及啓発の取組が、市民の理解の深化だけでなく、健全な食習慣の実践にもつながっていると考えられます。

[第2次茅ヶ崎市健康増進計画]

第2次茅ヶ崎市健康増進計画 成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)	計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和7年度)	目標 (令和12年度)
朝食を食べている市民の割合	79.9%	82.2%	85.0%
1日30分・週1回以上の運動(同等のものを含む)をしている市民の割合	50.6%	64.3%	56.0%
喫煙している市民の割合(20歳以上の市民)	9.8%	7.7%	5.0%
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している市民の割合(20歳以上の市民)	15.1%	10.2%	13.0%
かかりつけ医を持っている市民の割合	70.0%	76.2%	75.0%

健康意識の向上や生活習慣の改善が伺えます。

特に「1日30分以上・週1回以上の運動をしている市民の割合」の増加率が高く、計画策定時と比べ、13.7ポイント上昇しています。生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している市民の割合は5.0ポイント改善されています。

[第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画]

第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)		計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和7年度)	目標 (令和12年度)
歯間部清掃用具を使用して歯のケアをしている 市民の割合		64.2%	72.6%	69.0%
歯周病がさまざまな疾患に影響していることを 知っている市民の割合		50.2%	79.2%	55.0%
オーラルフレイルを知っている市民の割合 令和7年度は20歳以上*1		24.9%	47.0%	30.0%
80歳以上で20本以上自分の歯を有する 市民の割合		40.1%	70.0%	45.0%
1年に1回以上、歯科医院を受診して いる市民の割合	15歳以上	45.2%	62.4%	50.0%
	60歳以上	52.5%	72.8%	58.0%

\*1 アンケートの設定不備により15～19歳の回答が含まれていません。

歯周病がさまざまな疾患に影響することへの理解や、オーラルフレイルの認知度も高まっており、正しい知識の普及啓発は進んでいると言えます。歯間部清掃用具の使用者も増加しており、セルフケアの質も向上しています。

(3) 計画策定時から改善が進んでいない指標

計画策定時の現状値（令和元年度）とアンケートを実施した時点の値（令和7年度）において、改善が進んでいない指標についてまとめました。

[第3次茅ヶ崎市食育推進計画]

第3次茅ヶ崎市食育推進計画 成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)		計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和7年度)	目標 (令和12年度)
令和元年度：朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数（単身者を除く） 令和7年度：朝食又は夕食を誰かと一緒に食べる回数 *1	15歳以上	平均週10回	平均週9回	週11回以上
外食等における栄養成分表示を活用している市民の割合		56.7%	48.6%	62.0%

(再掲) \*1 指標を「家族」から「誰かと」へ変更しました。「共食」は、家族に限らず友人や地域の方との食事についても含まれるため、調査する際の対象を変更しました。

15歳以上での共食の機会、栄養成分表示の活用において低下がみられます。栄養成分表示の活用状況については、女性の方が活用している傾向がみられます。

[第2次茅ヶ崎市健康増進計画]

第2次茅ヶ崎市健康増進計画 成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)		計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和7年度)	目標 (令和12年度)
起床時に疲労感がとれていない市民の割合		24.9%	29.2%	20.0%

起床時に「疲れが残っている」、「まったく疲れがとれていない」と回答した人の割合は30歳代と50歳代が他の年代と比較し高い傾向にあります。また、性別でみると、疲労感がとれていないと回答した割合は女性が男性より高い傾向にあります。

[第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画]

計画策定時の現状値（令和元年度）とアンケートを実施した時点の値（令和7年度）において、改善の進んでいない指標はありませんでした。

#### (4) アンケート結果から見えてくる5年間の取組の評価及び課題

##### [第3次茅ヶ崎市食育推進計画]

##### [評価]

食品の安全性に関する知識の理解や、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事への意識の高まりなど、食に関する基礎的な理解や関心の向上が見られ、本計画に基づく取組の成果が確認されています。

また、体験事業等を通じた食への関心の醸成についても一定の進展が見られます。

しかし、朝食摂取に関しては、特に男女共に20歳代で低い傾向が見られ、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の実践では、男性の20歳代～40歳代、女性の20歳代及び30歳代において実践割合が、他の年代と比較して低い結果となっています。

また、栄養成分表示の活用については、女性の15～19歳で低い傾向が見られますが、男性は20歳代以上の全ての年代において低く、食品の安全性に関する知識とあわせると、女性と比較して男性の食品に関する知識が行動に結びついていない状況が示唆されます。

##### [課題]

20歳代～40歳代、特に男性については全年代への食に関する知識及び実践に向けての働きかけが課題となっています。

##### [第2次茅ヶ崎市健康増進計画]

##### [評価]

朝食摂取や運動習慣、かかりつけ医を持つことなど健康行動について一定の改善が見られ、市民の健康意識の向上が確認されています。運動習慣の実践割合は30歳代女性で最も低く、男性と比較して全体的に女性の運動不足がみられます。

また、起床時に疲労感がとれていない割合は女性が高く、年代別では30歳代及び50歳代で高い傾向が見られます。さらに、喫煙の有無については、男性の喫煙割合が高い傾向が確認されています。

##### [課題]

年代や性別を踏まえたアプローチの充実が課題として挙げられます。

##### [第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画]

##### [評価]

歯及び口腔の健康づくりについて、正しい知識やセルフケアに関する普及啓発が着実に浸透しています。一年に一回以上歯科医院を受診する市民の割合が増加しており、知識の普及によるセルフケアと受診によるプロフェッショナルケアが組み合わせられお口の健康が維持されています。

##### [課題]

歯周病が及ぼす全身への影響についてやオーラルフレイルの知識、歯科医院の定期的な受診はいずれも男性の割合が女性より低く、男性への普及啓発が課題と考えます。

#### 4. 成果目標の評価

##### (1) 各計画における5年間の取組評価と今後の方向性

本項では、茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画を構成する「食」「健康」「歯」の各分野の計画について、それぞれ進捗管理表及び市民アンケートの結果を踏まえて、前期5年間の取組成果と課題を整理します。

##### ① 第3次茅ヶ崎市食育推進計画

<b>目指す姿： すべての市民が、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を身につけ、 生涯にわたって健康で文化的な生活をしている</b>				
<b>第3次茅ヶ崎市食育推進計画 成果目標</b> <small>(※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)</small>		<b>計画策定時の値</b> <small>(令和元年度)</small>	<b>中間評価時の値</b> <small>(令和7年度)</small>	<b>目標</b> <small>(令和12年度)</small>
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合		63.9%	82.4% ↑	69.0%
農業・漁業を体験したことがある市民の割合	小学生・中学生	91.3%	95.2% ↑	95.0%以上
	15歳以上	73.5%	85.3% ↑	90.0%以上
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数(単身者を除く)*1	小学生・中学生	平均週11回	平均週13回 ↑	週11回以上
	15歳以上	平均週10回	平均週9回 ↓	週11回以上
食文化の体験や継承に関する事業の参加者数		1,678	1,646 ↓	1,700
外食等における栄養成分表示を活用している市民の割合		56.7%	48.6% ↓	62%
朝食を食べている市民の割合		79.9%	83.2% ↑	85%
1日2回以上主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほとんど毎日食べている市民の割合	15歳以上	57.6%	71.2% ↑	63%
	20歳代・30歳代	37.4%	60.2% ↑	42%

(再掲) \*1 指標を「家族」から「誰かと」へ変更しました。「共食」は、家族に限らず友人や地域の方との食事についても含まれるため、調査する際の対象を変更しました。

#### 【これまでの取組の成果】

前期5年間においては、学校・保育所・地域における食育活動の広がりや、オンライン教材の活用など取組手法の多様化が進みました。また、朝食摂取など日常の食習慣に関する行動指標の改善が見られたほか、食品の安全性に関する基礎的な知識を有する市民の割合や、農業・漁業を体験したことがある市民の割合が増加しており、全体としては概ね順調に進捗しています。

市民アンケートの結果から、食品の安全性に関する知識を持つ市民の割合や、農業・漁業体験の経験割合、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の実践割合など、多くの成果目標において最終目標を超える結果となりました。また、小・中学生における共食回数の増加など、食に関する行動指標についても改善が見られています。

これらの結果から、食に関する知識や体験機会、基本的な食習慣に関する指標において一定の進捗が確認されました。

#### 【課題】

食習慣や共食、栄養成分表示の活用といった食行動に関する項目では、年代や性別によ

る差が見られ、特に 20 歳代～30 歳代において望ましい食行動の実践割合が低い傾向が確認され、男性においては女性と比較して知識の定着と実践について低い傾向が確認されました。

また、年代や性別の特性に応じた働きかけによる知識の定着と実践を促す取組の充実が求められます。

#### **[今後の方向性]**

20 歳代を中心に、朝食摂取や主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の実践割合が低い傾向が見られることから、当該年代の生活実態に応じた SNS 等を活用した情報発信を行うとともに、日常生活の中で実践しやすいレシピや、外食時や市販品の選択時のポイント等の周知啓発取組を強化し適切な食品選択につながる支援を推進していきます。

また、共食の状況に年代や性別による差が見られることを踏まえ、20～40 歳代には学校や保育所等と連携した食育の機会を通じて家庭での食事の大切さを伝える取組を進めるとともに、60 歳代以上には地域活動や交流の機会を活用した取組を推進するなど、各年代の特性に応じた働きかけを行い、家庭や地域における共食の機会の充実を図っていきます。

さらに、外食等における栄養成分表示の活用が十分とはいえないことから、広報媒体や栄養教室等を通じて表示の見方や活用方法の理解促進を図っていきます。

また、塩分・脂質等のとりすぎを防ぐために、外食時や食品購入時に栄養成分表示を参考に食品選択を促し、自分に合った食事を自分で判断できるようになる支援を推進していきます。

② 第2次茅ヶ崎市健康増進計画

<b>目指す姿：</b> <b>すべての市民が、自分の健康状態を自覚し、ライフステージに応じて、健康的な生活習慣を実践し、</b> <b>楽しみと生きがいのある自分らしい生活をしている</b>				
<b>第2次茅ヶ崎市健康増進計画 成果目標</b> <small>(※年齢を絞っていない対象年齢は15歳以上)</small>		<b>計画策定時の値</b> <small>(令和元年度)</small>	<b>中間評価時の値</b> <small>(令和7年度)</small>	<b>目標</b> <small>(令和12年度)</small>
朝食を食べている市民の割合		79.9%	82.2% ↑	85.0%
1日30分・週1回以上の運動(同等のものを含む)をしている市民の割合		50.6%	64.3% ↑	56.0%
起床時に疲労感がとれていない市民の割合		24.9%	29.2% ↓	20.0%
喫煙している市民の割合(20歳以上の市民)		9.8%	7.7% ↑	5.0%
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している市民の割合(20歳以上の市民)		15.1%	10.2% ↑	13.0%
予防接種の総接種率		97.4%	92.9% ↓ *2	97.4%以上
1歳6か月児健康診査の受診率		96.0%	98.6% ↑	96.0%以上
3歳6か月児健康診査の受診率		91.2%	93.2% ↑	96.0%以上
特定健康診査の受診率 (茅ヶ崎市国民健康保険に加入している40歳～74歳の市民対象)		36.2%	32.0% ↓	41.0%
健康診査の受診率(75歳以上の市民対象) *1		43.6%	40.9% ↓	49.0%
各種がんの検診の受診率	胃がん	5.4%	4.6% ↓	10.0%
	肺がん	18.6%	16.5% ↓	24.0%
	大腸がん	16.6%	14.4% ↓	22.0%
	子宮がん	8.8%	7.0% ↓	14.0%
	乳がん	9.3%	8.3% ↓	14.0%
かかりつけ医を持っている市民の割合		70.0%	76.2% ↑	75.0%

■着色している数値は令和6年度となります。令和7年度は未確定のため、中間評価には令和6年度の数値を使用します。

\*1健康診査は75歳以上の市民、後期高齢者医療保険制度加入者、40歳以上の生活保護受給者が受診できます。計画策定時の受診率には全ての対象者が含まれていますが、中間評価時には後期高齢者医療保険制度加入者のみで受診率を算出しました。

\*2令和6年度のこども予防接種(子宮頸がん、3種混合、不活化ポリオ、日本脳炎を除く)の接種率で算出しています。

**【これまでの取組の成果】**

本計画では、「一次予防(生活習慣の改善、心身機能の維持向上)」「二次予防(生活習慣病の早期発見・早期治療と重症化予防策の推進)」2つの施策に基づき取組を進めてきました。前期5年間においては、正しい知識の普及啓発や行動変容のきっかけづくり、各種検診の受診勧奨等を実施し、計画に沿った取組が行われています。

前期5年間の取組により、朝食摂取、運動習慣、禁煙及びかかりつけ医をもつことに関する指標に改善が見られ、市民の健康意識の向上及び行動変容につながりました。

**【課題】**

一次予防の取り組みについては、多くの目標で着実な進捗がみられます。しかし、予防接種の総接種率は低下しており、感染症の発症や重症化を予防するためには予防接種が重要

であることを、引き続き啓発していくことが必要です。

また、起床時に疲労感が取れないと感じる市民の割合が増加しており、特に 30 歳代及び 50 歳代で多い傾向がみられます。年代の特性に応じた働きかけが重要であり、ICT 活用の充実も課題です。

二次予防である各種健康診断や検診の受診率については改善が限定的であり、計画策定時を下回る項目もみられます。健康診断等の受診の重要性を自分事として捉え、受診行動に繋がる情報発信の手法が課題として挙げられます。

### [今後の方向性]

特定健康診査、健康診査及び各種がんの検診について、広報や通知方法等を工夫し、受診勧奨に取り組みます。

生活習慣の改善に加え、十分な休養やこころの健康づくりなど健康の質を高める視点を取り入れ、特に仕事や育児・介護などを担うことが多いと思われる 20 歳代～50 歳代に向けた取組を進めていきます。

### ③ 第 2 次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画

目指す姿： すべての市民が自分の歯と口の健康に関心を持ち、生涯自分の歯で食事や会話を楽しみ、歯っぴいで心豊かに生活している				
第 2 次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画 成果目標 (※年齢を絞っていない対象年齢は 15 歳以上)		計画策定時の値 (令和元年度)	中間評価時の値 (令和 7 年度)	目標 (令和 12 年度)
歯間部清掃用具を使用して歯のケアをしている市民の割合		64.2%	72.6% ↑	69.0%
歯周病がさまざまな疾患に影響することを知っている市民の割合		50.2%	79.2% ↑	55.0%
オーラルフレイルを知っている市民の割合 令和 7 年度は 20 歳以上*1		24.9%	47.0% ↑	30.0%
80 歳以上で 20 本以上自分の歯を有する市民の割合		40.1%	70.0% ↑	45.0%
1 年に 1 回以上、歯科医院を受診している市民の割合	15 歳以上	45.2%	62.4% ↑	50.0%
	60 歳以上	52.5%	72.8% ↑	58.0%
1 歳 6 か月児歯科健康診査でむし歯がない幼児の割合		99.7%	99.7% →	99.7% 以上
3 歳 6 か月児歯科健康診査でむし歯がない幼児の割合		88.4%	93.5% ↑	90.0% 以上
市立小学校における歯科健診でむし歯がない小学生の割合	1 年生	84.0%	82.9% ↓	90.0% 以上
	4 年生	86.3%	83.4% ↓	90.0% 以上
市立中学校における歯科健診でむし歯がない中学生の割合		85.8%	85.1% ↓	90.0% 以上

■着色している数値は令和 6 年度となります。令和 7 年度は未確定のため、中間評価には令和 6 年度の数字を使用します。

(再掲) \* 1 アンケートの設定不備により 15～19 歳の回答が含まれていません

### [これまでの取組の成果]

ライフステージに応じた歯科検診の受診勧奨や、正しい口腔ケアに関する普及啓発を中心に取組を進めてきました。前期 5 年間の取組により、市民の歯科受診意識の向上や、歯間ブラシ等の歯間部清掃用具の利用率の増加、オーラルフレイルの認知度の向上が見られ、全体

としては、概ね順調に進捗しています。

各種啓発活動を通じて、市民の歯及び口腔の健康づくりに関する知識が着実に浸透し、日常的なセルフケアの実践や歯科医院の受診と言ったプロフェッショナルケアの双方の重要性が市民に広く認識されてきています。

啓発活動の実施により、市民の歯及び口腔の健康づくりに関する知識が深まり、具体的な行動変容へと繋がっています。最終目標値を超える指標もあり、セルフケアとプロフェッショナルケアのどちらも重要であることが着実に浸透しています。

### 【課題】

市民アンケートの結果からは、オーラルフレイルの認知度が向上していますが、20歳代～50歳代においては認知度が十分に高まっていないことや、男性は女性に比べ認知度が低い傾向が見られるなど、年代や性別による差が課題として挙げられます。また、歯科健診結果では、小・中学生における、むし歯がない割合が低下しており、目標値に達していない状況です。

### 【今後の方向性】

20歳代～50歳代や男性を意識した SNS 等での情報発信を強化し、普及啓発の取組を進めます。また、普及啓発を続け、知識の定着と行動が持続するよう働きかけることで、お口の健康の維持・向上に取り組めます。

## (2) 総合評価まとめ

「食・健康・歯」を一体とした取組を推進してきた結果、事業の進捗管理表による評価では、全ての取組が8点満点中7点台を維持しており、各分野において計画に基づいた事業が着実に実施されています。ICTを活用した普及啓発や講座の実施など、社会情勢や市民の生活様式の変化に柔軟に対応しています。

分野別評価を横断的に見ると、「正しい知識や意識の向上」については一定の成果が認められ、全ての分野において知識のある市民の増加が認められます。

しかしながら、日常生活での知識の活用については、食品成分表示の知識があるにもかかわらず買い物や外食の際に活用できていない等、「自身の知識を活用した上で、日常生活で実践すること」の行動の定着までには至っていません。特に仕事や育児・介護などを担うことが多いと思われる20歳代～50歳代は生活環境や時間的制約の影響を受けやすく、知識があっても行動につながりにくく継続が難しい実態が示唆されています。

また、二次予防における健康診断等の受診率については、目標値に対して概ね達成しているものの最終目標に向けた伸びが鈍化しており、一部では依然として目標値の達成が困難な受診率に留まっている項目もあります。

市民アンケートの回答結果では、40歳代及び50歳代の回答割合が最も高く（計36.7%）、健康への関心は見られるものの、この年代において食事バランス、運動習慣・休養といった生活習慣全般に関する課題が複合的に見られました。これらの結果から、一体とした取組を今後も継続していくことが重要であることが明らかとなっています。

## 5. 中間評価結果を踏まえた茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画の推進

食育推進計画では、前期5年間の取組により、食品の安全性に関する基礎知識の習得や農漁業体験機会の拡大、朝食を毎日食べる人の割合の増加などが見られ、食への関心と理解は目標を上回る水準で定着していることが確認されました。一方で、蓄積された知識を日常生活の具体的な「実践」へと結びつける点では男性を中心に、外食や食品購入の際に栄養成分表示を参考に選ぶ習慣が定着しておらず、主食・主菜・副菜を揃えた食事の実践率も、20歳代から60歳代において他世代より低い傾向にあります。

今後は、単なる知識の普及から一步踏み込み、日々の生活の中でバランスの良い食事を「選択」し「実践」できる環境づくりに重点を置きます。具体的には、家庭や地域で実践可能な調理や食品選択のスキル習得を支援するとともに、生活に即した体験機会を充実させ、知識の習得にとどまらず、日常的な行動の定着につながる取組を推進します。

健康増進計画では、ライフステージに応じた健康づくりを目的に、特に一次予防の分野において多様な取組を実施してきました。朝食摂取や運動習慣の定着、かかりつけ医をもつことなど、健康に対する意識や行動には、一定の改善が見られています。今後も健康づくりを通して、楽しみや生きがい広がるよう、取組を継続していきます。

また、起床時の疲労感が取れない市民の増加といったアンケート結果も踏まえ、今後は、生活習慣の改善に加え、休養やこころの健康と言った「健康の質」に着目した取組を推進していきます。

一方、二次予防においては、特定健康診査や各種がん検診の受診率向上に苦慮しています。市が単独で実施できる施策には予算的・物理的な制約が存在しますが、より踏み込んだ受診勧奨の強化が課題です。通知文にナッジ理論を用いるなど、行動変容に繋がるよう工夫をしていきます。

歯と口腔の健康づくり推進計画では、正しい知識の普及啓発が進み、定期的に歯科医院に受診する市民の割合も増加するなど、セルフケアとプロフェッショナルケアの両面において一定の成果が見られます。今後は、年代に応じた情報発信の工夫や、多様な媒体を活用した普及啓発を通じて、全世代における歯及び口腔の健康づくりの実践を広げていきます。

以上の分野別評価を踏まえ、本計画については、引き続き現在の枠組みを継承しつつ、中間評価において明らかになった課題については、後期5年間に於いて各分野の連携を強化するとともに、ライフアプローチの視点に立った取組を推進します。そして、市民一人ひとりが生涯にわたり健康でいきいきと暮らせる環境づくりを進めていきます。

(参考資料 1) 小学生へのアンケート用紙

食育 健康 歯に関するアンケート

小学生へのアンケート

回答期間： 11/10～11/30

提出先：茅ヶ崎市保健所健康増進課  
〒253-8660 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-8-7  
TEL.0467-38-3331

このアンケートをみて、わからないときは大人のひとにきいてください



1 性別

男性 (おとこ)



女性 (おんな)

回答しない

2 朝ごはんを食べていますか

- 必ず食べる  
 週に4～6回食べる  
 週に1～3回食べる  
 食べない  
 決まっていない



3 1日2回以上、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べていますか

- 主食 (ごはん・パン・めんなど)  
 主菜 (肉・魚・なっとうなど)  
 副菜 (野菜のおかず、スープ、みそ汁など)
- ほとんど毎日食べる  
 週に4～6回食べる  
 週に2～3回食べる  
 ほとんど食べない



4-1 「朝ごはん」を誰かと一緒に食べることが週に何回ありますか

- 1回  2回  3回  4回  5回  6回  7回  
 ほとんどない

4-2 「夕ごはん」を誰かと一緒に食べることが週に何回ありますか

- 1回  2回  3回  4回  5回  6回  7回  
 ほとんどない



5 農業・漁業の作業を体験したことがありますか

農業体験 (野菜やくだもの、お米などを育てること。田植えや、いもほり)  
 漁業体験 (魚や貝をとること。船に乗って魚をとりに行く、地引網など)



- 学校や保育園、地域などで、野菜づくりなどを体験したことがある  
 いもほり、くだもの狩り、地引、乳しぼりなどの体験をしたことがある  
 自分の家、親せき、知り合いなどで農業や漁業を手伝ったことがある  
 市民農園や家庭菜園で農業を体験したことがある  
 農業・漁業の体験をしたことはない



6 朝、起きた時に疲れがとれて  
いますか

- 疲れがとれてすっきりしている  
 十分ではないが疲れはとれている  
 疲れが残っている  
 まったく疲れがとれていない



7 30分以上の運動を、週にどれくらい  
していますか

- 週5～7回  それ以外 (月に1・2回程度)  
 週3～4回  30分以上の運動はしていない  
 週1～2回



8 歯間部清掃用具を使って ⑧で「使用している」場合、何をつかっていますか  
歯のケアをしていますか

歯間部清掃用具

(歯と歯の間にきれいにする道具)

- 使用している  
 使用していない



- デンタルフロス、糸 (付) ようじ  
 歯間ブラシ  
 水流式口腔洗浄機 (強い水のシャワーで、歯のすき間や歯ぐきのよごれを落とす機械)  
 タフトブラシ (歯並びの悪い部分や歯の後方を磨くための部分磨き用歯ブラシ)



(参考資料 2) 中学生以上へのアンケート用紙 (1枚目)



回答期間：11/10～12/7

提出先：

茅ヶ崎市保健所健康増進課  
〒253-8660 茅ヶ崎市茅ヶ崎1-8-7  
TEL.0467-38-3331

小学生・中学生は1～9まで、15～19歳（中学生を除く）の方は1～15まで、  
20歳代～70歳代の方は1～19まで、80歳代～100歳以上の方は1～20まで ご回答ください。

各質問で当てはまるものに  を記入してください。

1 年代

- 小学生（小学生）  中学生  15～19歳（中学生を除く）  20歳代  30歳代  
 40歳代  50歳代  60歳代  70歳代  80歳代  90歳代  100歳以上

2 性別

- 男性  女性  回答しない

3 朝ごはんを食べていますか

- 必ず食べる  週に4～6回食べる  週に2～3回食べる  食べない  決まっていない

4 1日2回以上、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を食べていますか

※主食（ごはん・パン・めん など）、主菜（肉・魚・なっとう など）副菜（野菜のおかず、スープ、みそ汁 など）

- ほとんど毎日食べる  週に4～5回食べる  週に2～3回食べる  ほとんど食べない

5-1 「朝ごはん」を誰かと一緒に食べるのが、週に何回ありますか

- 7回  6回  5回  4回  3回  2回  1回  ほとんどない

5-2 「夕ごはん」を誰かと一緒に食べるのが、週に何回ありますか

- 7回  6回  5回  4回  3回  2回  1回  ほとんどない

6 農業・漁業を体験したことがありますか（複数選択可）

※農業体験（野菜やくだもの、お米などを育てること。田植えや、いも掘り）

漁業体験（魚や貝をとること。船に乗って魚をとりに行く、地引網など）

家庭菜園（自宅の庭やベランダ、プランターなどを使って、野菜・果物・ハーブなどを自分で育てること）

- 学校や保育園、地域などで野菜づくりなどを体験したことがある  
 いも掘り、くだもの狩り、地引き、乳しぼりなどの観光的な体験をしたことがある  
 自分の家、親せき、知り合いなどで農業や漁業を手伝ったことがある  
 市民農園や家庭菜園で農業を体験したことがある  
 その他で体験したことがある  
 体験したことはない

7 朝、起きた時に疲れがとれていますか

- 疲れがとれてすっきりしている  十分ではないが、疲れはとれている  
 疲れが残っている  まったく疲れがとれていない

8 30分以上の運動を週にどのくらいしていますか

- 週5～7回  週3～4回  週1～2回  
 それ以外（月に1・2回程度など）  30分以上の運動はしていない

裏面へ

(参考資料 3) 中学生以上へのアンケート用紙 (2枚目)

- 9 歯間部清掃用具を使って歯のケアをしていますか  
 使用している  使用していない
- 9で「使用している」場合、何を使っていますか  
 デンタルフロス、糸(付)ようじ  歯間ブラシ  タフトブラシ  
 水流式口腔洗浄機(強い水のシャワーで、歯のすき間や歯ぐきのよごれを落とす機械)  
.....小学生・中学生はここまでです
- 10 かかりつけ医をもっていますか  
 はい  いいえ
- 11 歯周病がさまざまな疾患に影響することを知っていますか  
 知っている  知らない
- 11で「知っている」場合(複数回答可)  
 心臓病、脳卒中、動脈硬化  糖尿病  肺炎  骨粗しょう症  早産、低体重児出産
- 12 1年に1回以上、歯科医院を受診していますか  
 1年に1回以上受けている  数年に1回程度受けている  ほとんど受けていない
- 13 外食や食品を選ぶときに、栄養成分表示を活用していますか  
 はい  いいえ
- 14 食品の安全性に関する基礎的な知識(賞味期限、原材料など)を持っていますか  
 はい  いいえ
- 15 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画を知っていますか  
 はい  いいえ  
..... 15~19歳(中学生を除く)はここまでです
- 16 たばこを吸っていますか  
 たばこを吸っている  以前、たばこを吸っていたことがある  たばこを吸ったことがない
- 17 お酒はどのくらいの頻度で飲みますか  
 毎日お酒を飲んでいる  週に5~6日お酒を飲む  週に3~4日お酒を飲む  
 週に1~2日お酒を飲む  月に1~3日程度お酒を飲む  
 やめた(1年以上やめている)  ほとんどお酒は飲まない(飲めない)
- 18 お酒を飲む日は、どのくらいの量を飲みますか  
 1合未満  1~2合未満  2~3合未満  4~5合未満  5合以上  
※日本酒1合(アルコール度数15度、180ml)の目安:  
ビール(同5度・500ml)、焼酎(同25度・約180ml)、ワイン(同14度・約180ml)  
ウイスキー(同43度・60ml)、缶チューハイ(同5度・約500ml、同7度・約350ml)
- 19 オーラルフレイルを知っていますか  
 はい  いいえ  
※オーラルフレイル(高齢になり噛む力が弱くなったり、食べこぼしが増えるなど口の機能が低下した状態)  
..... 20歳代~70歳代の方はここまでです
- 20 20本以上自分の歯がありますか  
 はい  いいえ

ご回答ありがとうございました。期間内に健康増進課へ御提出ください。

(参考資料 4) 茅ヶ崎みんなの食と元気と歯っぴい計画概要版 (P 5)

### 3つの計画の成果目標

3つの計画の成果目標を設定しました。令和12年度に成果目標を達成できるよう、3つの計画を推進します。

第3次茅ヶ崎市食育推進計画 成果目標		現状値 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合		63.9%	69.0%
農業・漁業を体験したことがある市民の割合	小学生・中学生	91.3%	95.0%以上
	15歳以上	73.5%	90.0%以上
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる回数 (単身者を除く)	小学生・中学生	平均週11回	週11回以上
	15歳以上	平均週10回	週11回以上
食文化の体験や継承に関する事業の参加者数		1,678	1,700
外食等における栄養成分表示を活用している市民の割合		56.7%	62.0%
朝食を食べている市民の割合		79.9%	85.0%
1日2回以上主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を ほとんど毎日食べている市民の割合	15歳以上	57.6%	63.0%
	20歳代・30歳代	37.4%	42.0%

第2次茅ヶ崎市健康増進計画 成果目標		現状値 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
朝食を食べている市民の割合		79.9%	85.0%
1日30分・週1回以上の運動(同等のものを含む)をしている市民の割合		50.6%	56.0%
起床時に疲労感がとれていない市民の割合		24.9%	20.0%
喫煙している市民の割合(20歳以上の市民)		9.8%	5.0%
生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している市民の割合 (20歳以上の市民)		15.1%	13.0%
予防接種の総接種率		97.4%	97.4%以上
1歳6か月児健康診査の受診率		96.0%	96.0%以上
3歳6か月児健康診査の受診率		91.2%	96.0%以上
特定健康診査の受診率 (茅ヶ崎市国民健康保険に加入している40歳～74歳の市民対象)		36.2%	41.0%
健康診査の受診率(75歳以上の市民対象)		43.6%	49.0%
各種がんの検診の受診率	胃がん	5.4%	10.0%
	肺がん	18.6%	24.0%
	大腸がん	16.6%	22.0%
	子宮がん	8.8%	14.0%
	乳がん	9.3%	14.0%
かかりつけ医を持っている市民の割合		70.0%	75.0%

第2次茅ヶ崎市歯及び口腔の健康づくり推進計画 成果目標		現状値 (令和元年度)	目標 (令和12年度)
歯間部清掃用具を使用して歯のケアをしている市民の割合		64.2%	69.0%
歯周病がさまざまな疾患に影響することを知っている市民の割合		50.2%	55.0%
オーラルフレイルを知っている市民の割合		24.9%	30.0%
80歳以上で20本以上自分の歯を有する市民の割合		40.1%	45.0%
1年に1回以上、歯科医院を受診している市民の割合	15歳以上	45.2%	50.0%
	60歳以上	52.5%	58.0%
1歳6か月児歯科健康診査でむし歯がない幼児の割合		99.7%	99.7%以上
3歳6か月児歯科健康診査でむし歯がない幼児の割合		88.4%	90.0%以上
市立小学校における歯科健診でむし歯がない 小学生の割合	1年生	84.0%	90.0%以上
	4年生	86.3%	90.0%以上
市立中学校における歯科健診でむし歯がない 中学生の割合		85.8%	90.0%以上

※ 年齢を絞っていない成果目標の対象年齢は15歳以上となります。